

續  
國姓爺忠義傳  
後編  
六

~13  
4270  
5





113  
4270  
5

繪本國姓爺忠義傳後編卷之六

附錄臺灣記卷之一

目錄

李勇訊塘斬姪歎

大寬嶋地妖を現と図

李勇草身小く姪歎を斬図

神通道人出大寬 同図

朱一貴柱嶺見李勇 同図

杜君英怒捉噲元

朱一貴崗山結義

杜君英噲元が士卒を傷図

朱一貴定計策取各塘

朱林義天  
寄贈

91-2145







の名匠が造るる樓ゆく礎深く帯堅く其高たてし思置るる  
 て雲が凌ぐ外國の賓客此臺成らん為小波濤を犯し此地小  
 来る者多し是れ登て眺望せし臺地の山川一望の中小錫其  
 絶景言語絶し故小臺灣乃名成呼ばる此臺今日地震の  
 為小崩圮せぬ諸人大小怖く其凶兆を危しかり所ふ又此地小高  
 巨石あり平日温くして夜之先を放ち雨の中と氣を幾と故り世  
 人称し生石と云然此石故り忽ち雨片小割ぬ其体刀を  
 ちつて劈らるが如く一片を水を出し一片を草成投まを忽ちとて  
 火とふる是凡吏ありと諸人益不平の事あり又此地小二人  
 の儒生あり邵康節が占法を傳く易学小達し其吉凶悔吝指  
 吏神のくかりたるが生石の破裂せむ成り筮成數卦を起し

トハ眉然頓首て曰。是必とくくくく于才幾くを嗟歎ぬ出  
 とも世人の是成信せん。因小漳乃長泰の人小姓を朱名小貴と云  
 人あり其祖先明の大祖皇帝朱元璋の後裔小く小名を朱祖と  
 云り。人々ふるふ及び博く緒史百家の書小通し。就中能孫吳の兵法  
 成覚し。張良孔明が智成吾物と云。今臺灣南路の村落小居し其  
 志平素小中華の北狄小没し。其成歎れ一度義旗を用く。又祖の  
 仇讎を報せん。吏成あり。因々英雄の士小交成結びぬ。其頃臺灣  
 天柱嶺の辺小奇姪の悪獸出其者。身乃丈一丈余。小く腰長  
 く馬小類し。全身小赤く紅井の髪面成覆ひ長たし。腰を  
 過眼ハ光る。百煉の鏡小朱成灑るが如く。其走る吏疾風の如し。  
 常小入畜田のちちなく取喰く。水を奔り溪成掃拂く。似て拂々





臺灣嶋  
ちようをあらす  
現地妖

見善傳後編卷之六



小あゝ以吏小其名成知人なり。廣越の人郭生とて士是が為小喰ひま  
 又或対推夫五人岩頭小柴荷成下と息以各飯を喫せんと欲す  
 る処小例の悪獸忽心然とて前小まきり推夫小對て手成出物と  
 氣成とて。推夫小戰慄其食成と吏成察し何と辞とて吏成得人  
 飯得抑よりあけと与れむ口小くひ。又其次の者小食成を吏  
 始のく。斯く四人目まき食成をて一口は小喰ひ五人目の者の前小  
 けり食成を吏前のく。然小此者ハ疾喫しとるり々れハ奈何と也  
 可為中うなく空成骨柳を見せと其無成示しとる小悪獸大つ怒り  
 忽ち其者小形蒐り引摺る首成捨斬とて口成付と其血成吸西人  
 の者是成死んく生とる心地なく苦と叫と柴成捨魂を空ふとく雲  
 霞小逃走り幸成命成免と吏成得とるれを諸人是を怖とす

地蝎より由甚く往來是が為小絶々なり。其後汎塘とて処少緒  
 人強立須致例の悪獸と出とる。東西南北小走り送ふ其比  
 李勇とて人あを明の李文忠の玄孫小と。身材八尺紅顔面小  
 しく眼朗なる星のく。武技群を出力量とて衆小勝を能成用を  
 辨た巨木成拔豪傑なり。此日民家小在と田基成入居とる小  
 悪獸きと居とてを皮と比と太刀を提て躍り出此処彼処とまきり回リ  
 尋々る汎塘の辺りある巖の上小立る者あり李子勇瞳を定と眈  
 とカ々小長一文余に全身朱をりつと百度塗まると如れ異獸左の手  
 小長なる髪成扱と上凜然とて此方を見る。其眼乃光目小映と  
 く腕とて恰も電光小一般なり。李勇些も怖と小躍しと大刀と真  
 向小様一睨とる怪獸遠く望とて李勇う来る成知まきとて近く



かりて是れ見付忽ち憤然として一声吼李勇が目げ飛蕙る。李勇  
 固り怪徒の達人をば身成ひ緋つて左右小避ると二三度悪獸と只  
 一抵とかりひきあふ。李勇が為小繰まき大い怒吼リ牙を鳴して喰ん  
 とひ李勇猶是れ前後ふり。一点の虚成睨ひ大刀を挙げまわると  
 斬小肩尖より肋をうけ斬込り。悪獸斬まかろ猶勢ひ減せし掻  
 抵へ喰付んとし。李勇早く身を沈め咽喉の下首をきり付疵只腕  
 成さ一込小推倒し臍腑を扱へ出とふと。一もの猛獸吼苦そ手足と  
 張て向死しり。李勇頭て首成斬落し其髪を腕小かち提めん  
 小重し破石のころ。されども安々と提て百歩許歩まろ。何れせんとい道  
 側小捨く其髪をり成斬て持ふる。去程小諸人李勇が悪獸成殺しぬ  
 と安く我もくと汎塘小走行んる者山ろぐ。其死骸をみん舌成震

一かる姪獸成容易屠殺せし李勇が驍勇こそ怕しと其風統  
 遠近小隠かり。李勇と件乃髪成持く前小田基成んるる百姓  
 の家小到り。髪をみせく其五二十成繕るふ。主翁羽をり免隣家の  
 者まぐ群りまきりて悪獸の髪をみん。わりの姪獸成殺とる人  
 業小あむと賞敷し尊び怕る。吏紳人のころ。主翁其髪成提めん  
 小長サ五尺小余り紅の深く光彩あり。乱れ揮む金珠燐々として通  
 り散が。実も奇代り珍富ふと。金十片を出しと求人。更成乞。李  
 勇涕然とく金を推戻し髪を主翁小与り。從容とく飯りたり。主  
 翁と二か死奇物成得ると愛翫し。其夕より俄小發狂し眼を  
 瞋し大い吼り罵り人をみる。毎小爪を裂と。遂小狂ひ死を。是猛獸  
 の悪靈の所為とまろ。彼悪獸死ても李勇が勇威を怕るふや





リヨ  
李勇  
草身  
斬  
妖怪

只此傳德經卷之六



李勇ハ冠をさす更紗の衣をまき羽衣の如く殺さるハ姪一りの珍更なる

神通道人出臺灣

抑臺灣の地南北を三路に分ち南千余里北千余里なり然亦近比  
一個の道人出身材七尺五寸髣髴采女之皓白之顔桃花の如く  
竹冠頂を閃綴る道服を穿ち飛雲表衣掛蓆の仗を携勢々  
然々々々東西南北の街を游行一人の吉凶凶察一後更を示さる  
掌を指がごとく毫髪も違しを先頃此道人緒人示し曰此  
地大陽の氣地不復一幾さる更成得ど久々々々地大震動  
とて一教が果々々々旬月を徑がごとく大地震せん是亦因に緒民  
いよ々々錫仰一神通道人と稱し々々尊以崇ぶ道人々々病者亦遇を  
符水を与へ或は呪ふ亦亦功驗ありされども一紙半錢謝物を受し

北路より道人の符水を乞ふ者日必用たる南路より道人の呪ふ

より魔夫起りり同輩一其餘の奇特もかくかれ貴賤男女道路

小香火焚踏て敬ひ拝し符水を乞ふ道人或は緒民の對ひ餘亦復人

能く今歳四月の故小々々大難小遇性命成保ち難く人我是を

救ふと欲しり災害免んと欲せん其頃小々々帝令の二字成

紙旗を造り書門毎小排案成級香成焼く拜せん自然難免

長壽成保と示し緒人大小悦び各給小記々々專準備を

一貴柱嶺見李勇

臺地小天柱嶺より高山あり往年國姓争が火蟲を撃し山より嶺  
僅て九天を衝奇拍姪松枝を交へ雁之長空をさるる船を遠水を  
行実小臺地第一の佳景あり近頃嶺小遠望とてき為とて茶店と



つくり管の久二里ぐり下まを宿客きりり居るが釣をさすの廬  
 廊が建より是に因り芳の待客文人此地おきりて風景が詠ごと  
 平素かり或日朱一貫柱嶺お登り茶亭お息て地景の清雅多  
 眺望し古詩を吟詠し樂に居るふ忽ち二個の壯士戦小豕と拵  
 りり振擔さるがきりり亭小坐し腰を瓢の大サ一斗紆と入  
 らんと覺りたより酒を差小移し船承裁し且食且飲て縦風  
 景が詠弄朱一貫熟其人表をるふ尋常小異をれ暗小心中の  
 感し想道今の代わらふ豪傑在るふ往古の伍子胥樊噲ふ  
 が相貌も斯や有るれと賞譽し兼て大志が懐かろる英雄の交を  
 結ごころと思ひ近侍と結合其姓名成向小彼士も朱一貫が人相と  
 て凡庸か下とありの言を恭しく曰僕と不肖も明の季

が玄孫小李勇字ハ子維と呼者小朱一貫を汎塘あが娘を  
 斬一人李勇言て曰然り我祖父明朝小吏一履戦ありと曹國公と  
 なる我を幼して又母小離を淮南小在て成長しが子細ありて此  
 臺地へきり履が賣く世に渡る結貴卿の大名成史人朱一貫あり  
 想道李忠文と明の功臣ありと大祖の姉の子かり今李勇が言結  
 の裡小頗慷慨の心然合り是必と我と同意の人なるべと早うの答  
 谷て曰我と明の始祖朱元璋が後裔小して姓を朱名一貫と呼り自  
 称小と李勇大ソ小該れ急小身成屈して三拜し頓首して曰始より凡  
 下の人かんとおりのいひも何量人明帝の皇孫ゆと在ると不佞の  
 地小移住せ公小面會せん更成款とる故なら曾て朝暮天小新り  
 たる戒心通しと天良縁を下し今日始と尊顔成拜とる更





えんどうどうえん  
神通道人  
といふおいつる  
出臺灣





つりと大の悦び且曰く尊公明王の貴胃くぞ何ぞ北狄の爲り  
膝成屈しりや願大義の策成かりひま我不肖なりとも一臂の力  
成助進と願し朱一貴急小同緒とて制し此処と客舎なり何吏を  
議とて先我草廬へきりりまゝとて西人茶亭成之出柱嶺と下ぬ

杜君英怒擒噲元

茲ふま杜君英といふ人あり原明皇の二族たりし又公宗禎の乱小討  
を敵放火しく其館火の爲小焼れ多ふ杜君英も母を幼き時より武  
技を好む勇力在るが北河女も動せむ杜君英といふ幼童なり成む  
懐死繩をかりんと去ると其上成身小纏付只一人落行り小鞭將の  
中小是成刀を戦を奉り突く多成更もせむ其戦を奪りり却  
て敵將成突殺し連く鞭將十二人撞く落し緒人の月成たつり

とて小勇戦し遂小一方を斬抜く遁ま數月を歴く此地小きりり任  
と其後杜君英成長小従ひ母の旅力成受継でカ百人敵し當世の  
豪傑なり殊小醫療小積りるれが家大の富り杜君英天性仁慈  
深く貧民を恤し窮民の患病あま茶咀を絶して一物成由謝を  
受とされども約定小違者あまを決く是成行る故小民も君英を  
貴ひ重とるり君又のく杜君英も母の遺命成かりり平日小中  
華の北虜小陥没したる成憤り不平成懐る久し然小縣令噲元とい  
者殘忍暴悪小く下民を虐げ安小貪り飽更成まはは是小より  
民の窮迫よりなりか死処小今般地震の爲小屋を崩され津浪の  
爲小家財成流されいより貢税綱進とるり能る其昔成歎き松  
る小噲元曾て承引せむ貢物成欠者悉く捕り殺人と觸かむ



君英是戎使く其無道を憎とつゝ怒成るは其の貧民の殺さ  
 るを憐れ家財金銀を惜む民小借与へ貢税の半を贖しむ  
 噲元是戎受収く尚不足かりし。提督百人を遣して貢税と  
 せしむる者之を小屠殺せし命を提督亦命成り  
 たり散家々へ乱入民家の男女を怖惑し門戸を閉じ出合は  
 成り提督亦大に怒り門戸を破り資財を奪掠婦女妻妾  
 亦捕へ白晝に奸淫し其狼藉言絶り杜君英此由成して  
 大に怒り一丈五尺の鉄棍を握りと提督に馳到り汝亦鼠輩  
 杜君英在戎去らばと叫び之処に數十人成率殺し提督亦此勢  
 小怖恐し恰も蜘蛛の子成散とて後成もんとして逃去り百  
 姓亦大に喜び杜君英が前小拜伏し涙成流り曰尊公の救ひも亦

あつと人を這邑おと人類絶たせし。提督亦逃飯て斯と告む  
 むいゝく毒悪の縣令必定憤怒し躬きざる所。是戎如何防  
 りぬる君英が曰噲元が暴悪八天の容ざる処かり生く置は血汝亦  
 成虐重し我誓て渠を率殺し人此吏官府へ聴へ追捕の兵未  
 し自縛して罪小伏せんもの。汝亦噲元が兵成防ぐ準備成り如斯  
 く針とを指揮しれむ年来齒を切く怒り怒り土民前後の  
 思慮おも及なく皆承伏し杜君英が下知小隨ひ遠小行を控て  
 りとかり亭成よりと絃とかり。或は斧鐵或は耜或は掘鍬搭亦  
 成りち。又と竹成鐵と鎗とかりて推へ君英が指揮を待君英土  
 民半成分り手毎小石礮成持し。噲元がきこるが山隘ニヶ所小  
 伏置今やくと待りけり。是より前小提督亦息成限小逃回り



李勇  
於天柱  
嶺遇  
朱一貴



忠義傳後集卷之六



如斯の報ト云れ。案の如く。噲元大ノ怒リ。此六我其杜君英  
 死蹴殺シ。次小民ハ其屠人ト圍敦無智短才ノ小入カキ。何  
 何ノ慮モナク。土民ハ侮リ夷衣カモ固ガト馬小踏テ提轄三百人  
 行ク。後小續セテ。怒リ。嗚々トシ。走ル。馳出。五里ハ  
 行ク。山中ノ左右切岸カ。路ノ松拍森々。たる処。又。小  
 切岸ノ上。小數百人。咄ト現。出。石。投下。ト。霰ノ如  
 又。殺矢を雨ノ如ク射。噲元。衆人。不意。必。取。手。被。レ  
 漂。小。処。を。入。と。多。リ。又。二。群。ノ。土。民。殺。鎗。鉄。鎧。を。揮。斧。鋌。を。揚。レ  
 縦。横。無。碍。小。衝。多。る。如。ト。噲元。麾。下。ノ。者。一。戦。小。採。崩。され。さん。小  
 敗。走。と。噲元。大。小。怒。リ。固。リ。馬。術。小。達。一。乳。鎗。を。推。テ。突。テ。回  
 リ。馬。カ。起。シ。ト。蒐。多。る。歩。平。是。小。氣。カ。ゆ。ク。足。を。踐。較。正。テ。挑。戰。シ

同。小。一。声。ノ。號。炮。響。ト。ひ。く。後。ノ。山。間。ト。リ。又。二。群。ノ。土。民。起。シ。真  
 先。小。長。八。丈。ノ。の。壯。士。長。九。鉄。棍。を。振。テ。當。カ。幸。小。擊。殺。と。是。一  
 突。ノ。大。將。ノ。杜。君。英。カ。リ。其。形。勢。凜。然。ト。シ。猛。虎。ノ。群。羊。カ。驅。如  
 カ。レ。也。土。民。亦。是。小。從。テ。捲。リ。多。る。噲元。勢。討。テ。者。數。多。ク。残  
 小。方。ハ。散。乱。ト。噲元。也。二。処。ノ。疵。を。受。叶。ト。シ。カ。ハ。人。馬。カ。鞭  
 小。馳。ク。行。を。君。英。追。蒐。ト。シ。雷。ノ。如。ク。色。カ。散。リ。噲元。走。ル。如  
 勿。是。杜。君。英。此。小。在。ト。ハ。一。鉄。棍。カ。執。伸。テ。馬。ノ。四。足。カ。雜。カ。レ。ハ。馬  
 小。倒。ク。起。シ。テ。能。カ。ト。噲元。也。逆。小。落。テ。蝨。ト。君。英。棍。カ。振。上。微。塵  
 小。せん。む。勢。ハ。かり。多。る。奈。何。カ。ハ。猿。磔。カ。伸。テ。噲元。を。使。ル。と  
 鉄。挟。ミ。多。ア。ガ。リ。多。ク。鉄。棍。余。リ。小。強。ク。遣。テ。正。カ。レ。噲元。を。膠。夾  
 小。カ。鉄。棍。ノ。正。を。兩。手。ア。ク。ナ。リ。多。ク。杖。小。仗。テ。歸。リ。ぬ。斯。ク。卿







とくろん  
杜君英殺  
會元兵





人我一人山於下りて蹴散さんと圍敦己小席於起んと。朱一貴皆  
 と止ちて曰余袖中小卦於發くと占ふ天火日人乃互交變於はる。是大  
 義小日意の人きこれちる人其く迎接し其人於入る登しと宿め。小  
 卒小命しき迎しむ。小卒其意於ほくと去少岡有と入り豪傑と  
 伴ひきこる。衆人は於入る小身財八尺有余小しと虎體熊臂威風凜  
 々しと相貌堂々し。一貴大は悦び席小清めて曰豪傑何乃示と処  
 有て光臨於惠めや願其大名於受人彼人一貴を凡と急小地小拜  
 伏して曰下官百姓杜字八君英と呼と。又明朝小事崇禎の亂小戰  
 死し畢ぬ我父母の艱育ち成長平日小母の物籍中と。明朝北虜の  
 為小亡滅せし後悔を爵々し於憤於はるは小縣令噲元會後小  
 しく民於虐あつとと衆民於殺人とと下官是於小言小思と曰

於ほと噲元於殺し已小大罪於犯しなると官府の征兵於引受死  
 於快せんとおひも。尋く乃百姓於連累小せん妻於帳と黙止処小尊  
 公大義於かりひまむと史悦小絶と百姓亦を師て地きこり願くハ  
 一卒の員小加ふと大馬の勞於辭しめと曰わど朱一貴大は悦  
 ひ席於進く觴於入俱小大義の針を議し妻乃百姓を山中小留  
 く進退於習しち存侯を南京遣し其動靜於窺しむと小日  
 有侯一人走廻りて曰此頃清朝渡海せし高客と曰舟小渠が結り  
 くると頃日臺灣の僻卿縣令於殺したる首朝廷聞兵を差向ん  
 と專ら其準備ありと史いぬ報せん為小早速地廻りいと曰朱一貴史  
 て実さも有登し先むる岡を人を制し先んせとるれハ人小制せとる事  
 延しとと先此臺灣を攻取帶於堅し機於量と清朝攻入

忠義傳後編卷之六

十五



かんと先數万の大旗小旗を造り兵糧武具馬具兵器を人ど右増  
綱を吉且成撰南路の崗山に於て旗を揚抑此崗山は南路の  
扁界ありて府治を距更三百余里要害堅固ありて究竟の地  
此日朱一貴崗山の上なる神祠の前大明帝令と書し大旗と立  
其下小旗と白馬成等して天を祭り鳥牛成殺す地成祀り諸將  
階位成守りて列坐一血成りて盟書成書し血成軟く盟の義  
成唱るの約成を人同忽然とて一陣の狂風發りて帝令の大旗  
成吹折れ人衆人大小成らる今義兵成挙るの同臨て旗成吹折  
更奈何なる凶兆やと心成あふむ朱一貴昂然とて發く色なく  
衆人強ぐ更勿急昔武王紂王が無道成伐んと軍莊せり日狂風吹て  
土成を捲旗を折りて太公望是を卜り吉兆とて兵を進り終小軍成

歩勝り周室八百年基業を用り且我昨夜夢見一処の神靈の生  
小應せり是必と神助成たり吉兆なりとて即同小神鳥龍旗  
立るをふより衆兵初て心成安んじ朱一貴令を下りて杜君英の卿  
兵成帥て北路より進まり吳外汪飛虎成添て佐り李勇の南  
路より向せ張看換降小を佐小副成り

一貴定針取各塘

同小陳福壽進て出て曰今麾下の勢成足る小僅小三百人の過す此  
勢成ありて全營の敵軍小當人更蟠螂が各成以て立車小向がと  
く昔衛の海を埋んとしとる聲小解りてとや朱一貴笑て曰否然と軍  
ハ兵乃多寡ふより只將の智愚強弱と號令乃可否小依りて寡中  
衆小勝大中小小制せり今清朝新小治り上下泰平の化小成り



武備不怠。且代難。但一借身。方諸將の人となり。成るる  
 小杜君英。ハ智勇無備。の英雄なれども。只短慮。ふり。更の破を引  
 出さん。や。成。怕る。李勇。と。志厚く。然も勇猛。あり。古の張飛。が。風  
 あり。大將。不任。と。ふ。堪。れども。恨。り。酒を嗜。む。扱。も。一。人  
 其本性を。乱。る。張。着。蘇。降。張。河。三。等。ハ。尋。常。の。者。な。れ。論。ま。る  
 処。か。汪。龍。虎。ハ。其。勇。敵。か。り。と。も。性。躁。く。智。浅。し。御。辺。と。江。國  
 論。ハ。學。才。あり。心。剛。かり。只。綿。蜜。小。過。く。機。を。弛。る。成。難。と。ハ。金  
 一。れ。ども。皆。普。通。小。越。る。人。傑。な。れ。心。成。責。く。我。指。揮。不。恃。む。を  
 臺灣。攻。と。人。吏。袋。の。物。取。出。り。安。く。勝。利。を。得。人。吏。十。日。と。出。し  
 御。辺。今。夜。深。吏。不。及。各。塘。小。出。山。々。街。々。小。駁。く。旗。幟。を。立。偽。兵  
 の。針。を。かり。百姓。の。耳目。成。お。ら。り。い。然。る。此。一。路。の。百姓。と。皆。来

り。後。ハ。伏。せ。り。但。一。緒。率。小。嚴。く。軍。令。を。示。し。到。る。処。の。御。里。中。く  
 秋。毫。の。犯。も。と。く。只。賺。し。喻。く。隨。從。せ。し。軍。士。然。る。降。参。の。百  
 姓。も。兼。て。造。置。る。幟。を。与。其。幟。の。色。成。り。つ。一。脚。く。成。分。つ  
 一。決。く。混。雜。ふ。と。ふ。と。我。も。兼。て。遠。針。成。定。め。お。れ。た。を  
 各。塘。ハ。只。一。鼓。の。下。小。取。り。人。敢。く。兵。の。少。た。を。憂。と。せ。れ。各。塘。を。攻。取  
 り。大。小。兵。卒。成。得。べ。南路。の。敵。營。を。遠。近。く。も。小。吾。軍。の。旗。の。い。さ。る  
 成。ん。皆。膽。成。冷。一。魂。を。消。く。弊。走。人。其。因。不。乘。く。晝。夜。長。く。疆  
 臺。府。小。乱。入。敵。軍。の。不。意。を。擊。つ。ど。か。勢。ハ。逆。を。捲。く。と。く  
 大。利。成。ゆ。人。吏。必。定。せ。り。と。年。古。溜。々。と。懸。河。の。ごと。く。演。々。と。小。を  
 陳。福。壽。大。小。悅。び。尊。公。の。神。策。矣。小。呂。子。孫。子。下。小。出。む。と。賞。し  
 兵。然。く。帥。各。塘。へ。赴。た。り。即。く。康。熙。六。十。年。四。月。廿。二。日。朱。一。貴。が。計



江國論陳福壽張看嶺降張河三等の宗徒の人々皆行客  
 の姿不打扮各々おひひく各塘不往宿成借お素り各塘の旅人を  
 宿も屋多々れ敢て疑者なく此徒成留し借其夜半過る比り  
 忽ち四方小喊声起りしに諸人大い周障狼狽し是ハ何吏の起り  
 りやと忙惑ふうち江國論陳福壽以下同分々とうと内より門戸を閉て  
 兵然引入異言今聖王出く代を治んし又従ふ者八命を宥し恩賞  
 あらん不従者悉く殊罪三族小及んと呼ぶ小各塘の人民之俄  
 乃吏あくおひひくされを手の舞足の踏成を走りに出く四方  
 望んふ山々街々數萬の旌旗月映し天小翻りく金鼓の響音餘  
 波震動し山岳も一度崩るるを衆人劫戦れ何と争ひ  
 送る者あらん盡く地伏しく従隨せん吏成願義徒是成赦

旗幟成与へ此勢成押さるる泰山も踐潰人勢成成りく敵の陣營  
 小斬り入清兵と不意成擊し其後成惑ひ鎗より射りて敵成  
 防人とも心ゆかり義徒と機ふ素く踏込く斬捲れど營兵何  
 欠堪成死一戦成及むと塞成令り敗走と朱一貴女同追討さ  
 せく軍成斑ら敵の捨る馬武器刀劍鎗戟兵糧亦成多奪ひ  
 諸將成分ち領しおひく小鎧を穿ち各械を採馬小御して  
 初り回天の勢成顯しぬ各塘の地方百里不及を朱一貴が方寸の針  
 りく僅一夜の間小陥さるる奇代乃妙業やと感せぬ者社ありなり

國姓爺忠義傳後編卷之六畢



繪本國姓爺忠義傳後編卷之七

附錄臺灣記卷之二

目錄

李勇直取南路營

李勇馬定國を討圖

周應龍敵勢を見て逃走圖

一貴智取塗整埕

大宛人民朱一貴が軍を迎る圖

許雲大戰安平鎮

許雲遺計焼兵糧

同圖



繪本國姓爺忠義傳後編卷之七

李子勇直取南路官

千丈の塘も蟻穴より崩るを以て朱一貫一挙にして各塘を陥て敵軍を追拂ひ各塘の人民も謀を授け其徒を帥て廿三日下淡水より船を乗じ東港を過其沼途の民百姓も告ぐ曰せり今清朝上政を乱し悪吏下は虐萬民苛政を恨む此故も皇天皇土怒りたり臺灣の地種々の天変地大に現れ我主六明の皇孫も絶つて其與し萬民乃困窮を救ふを義兵を起し其故も遠近其徳も懐き風草の振るはる。是も從ふ者も自然身安んじて徳澤も浴し背く者も三族を刑せしむんと觸流も衆民大に安んじて遠近も望みんぬ四方一面も皆明の旌旗も雲の如く其向ふ処軍卒

同図

大東八月末一貫の軍を遣はす

一貫が臺灣を討つ

同図

李子勇直取南路官

李子勇直取南路官

同図

繪本國姓爺忠義傳後編卷之七



法令守り秋毫も犯さず。殊に各塘の人民も随逐き。我もくと喘伏し。以て随従せし。我願ふ。是も依る。其降と許し。皆旗幟。其村に赤旗。其の邑に青旗。とれく色を分ち。村々里々。小多し。む。儲世。四日。小下。碑頭。小屯。直進。不意。不出。南路。管攻。攻る。南路。管の。多將。苗景龍。猝の。更。大。小。驚。出。と。不。計。かく。守。備。馬。定。國。呼。議。て。曰。賊。軍。不。意。小。蜂。起。して。眉。成。燒。の。危。急。より。足。下。先。手。勢。成。帥。と。向。以。守。禦。成。を。せ。我。其。間。に。伍。成。整。往。と。戦。ふ。を。馬。定。國。皮。く。微。笑。し。逆。徒。蜂。起。と。も。皆。これ。浮。浪。の。窮。士。五。七。輩。其。余。ハ。皆。農。民。工。高。の。徒。不。過。と。我。眼。より。見。る。寸。を。蟻。の。群。が。と。何。程。の。更。な。か。り。得。ぬ。我。弛。向。に。一。拳。小。と。蹴。ら。し。の。け。し。を。一。將。軍。ハ。侍。臣。と。酒。宴。成。な。り。て。我。賊。魁。を。擒。ま。さ。り。と。

待之飽よ。廣言。部兵。引く。弛向。苗景龍。馬定國。大言。と。信。せ。能。馬。成。り。し。と。總。鎮。歐。陽。凱。援。兵。成。を。斯。く。馬。定。國。屯。成。押。出。く。敵。成。遙。小。望。む。明。兵。潮。の。湧。ぐ。と。進。ま。さ。る。真。先。か。る。大。將。ハ。紅。顏。淘。面。あ。り。と。眼。朗。か。る。星。の。ぞ。く。身。小。鐵。甲。成。披。掛。一。丈。六。尺。の。緑。沈。鎗。成。提。げ。黑。龍。と。り。て。駿。馬。小。跨。ま。り。是。明。の。大。將。李。勇。な。り。馬。定。國。喝。く。曰。無。智。の。鼠。賊。泰。平。の。粟。小。飽。か。ず。猶。貪。狼。の。心。を。縱。み。逆。亂。成。企。つ。る。奈。奇。姪。なり。汝。男。子。な。ら。ん。我。此。梨。を。喫。し。憤。言。を。幾。し。と。突。く。李。勇。一。言。の。問。答。も。及。む。と。緑。沈。鎗。成。舉。ぐ。是。と。向。合。せ。戦。ひ。ま。ご。五。合。な。り。と。馬。定。國。梨。成。擊。落。され。大。小。狼。狽。し。く。漂。と。ま。り。成。李。勇。透。さ。び。斜。小。刺。成。馬。定。國。早。く。身。成。翻。し。と。是。を。避。馬。小。鞭。く。ま。り。空。拳。成。揮。り。敗。走。と。李。勇。大。小。怒。り。雷。



のどく吼く黒龍の一鞭を加へ怒がくく追付已ふ馬定國が一鎗小  
刺んくはる処ふ忽然くく金鼓の音震發り。深林の蔭より一軍殺  
出。大清參將苗景龍一書く大旗を翻し。真先かる一員の大將  
方天戟を把延て馬定國を技け。李勇ふ撞くくる。李勇些も動  
せしと景龍が迎へて戦ふ其驍勇群ふ秀れ。景龍争々敵をまき  
と十合をくぐるふ力疲を叶くどて馬定國と俱ふ逃る。李  
勇二將が射りくく益怒り長く驅く掩殺しきくる。苗景龍馬定  
國大ふ怕きく息が限み斃まる処ふおひひよりぬ白頭山の嶺よ  
り鯨声然どくと發し一彪の軍馬群り下る。是は敵の身方くと疑ひ  
惑く近付くは是は元々大明帝令と大字の書く旗をまき  
り。是明將江國綸やく朱一貴が針を受各塘より陸路が歴く

の不意小出くるかり。苗景龍是は元々大ふおどろた歎く。馬定  
國ふ縋く曰賊軍梟勇ふく勢の當く死ふ尚ま二軍加り我軍の  
前後を擁くれ。恰も壘の中の魚小ひくく遁る小路を。今我高  
地岡ふ登り敵軍が臨んく。幟が揮く其岡の薄た方を指す由  
ぞ。足下我幟の指方だ撃破り弛抜く。早く總臺鎮歐陽凱ふ  
錫一謀が合く。賊徒を屠り盡し。我は今日此所小於く戦死を  
ぞし。このまへはく。終るふ。早明軍逼り近着前後左右より敵く  
。鉦を歩鼓を鳴く。あは幸と斬く廻るふ。苗景龍今ハ高岳  
へ升るふ違なく。馬定國と俱ふ敵ふあり必死ふ成く血戦とせれも  
明兵も勢ハ大水の漲るどく。後よりハ李勇疾風のくく進殺し。前  
よりハ江國綸凜然くく突出し。近着バ清軍の射る者數まらど



李勇  
討馬定國





終小馬定國と李勇が為小刺殺され苗景龍は更のうかひが死をえて  
 戦死舎劍を抜くまづ遂小劉く死せしむれを殘兵或る敗走一或ハ  
 降参一多小一人。李勇。江國綸安々と南路營攻取苗景龍と馬  
 定國の首級を齎して朱貴勝軍に報じ是より以前臺灣の惣  
 鎮歐陽凱ハ此妻を中々大のにおら死部下の將卒を集商議一  
 く兵を緒処小分く嚴く守禦の備をなすと河は廿五日忽ち苗  
 景龍が船馬到來一羽檄を呈して急が告救を乞ふ更頻なり歐  
 陽凱羽檄を々々心せらるた更已急なり維り向く苗景龍と救  
 んら声小奮どく一員の大將言を發一某向く救入といふその声  
 物裂裂がどくなれを緒人發く是成んる小周應竜といふ者なり歐  
 陽凱曰足下佳人となくを臺縣丞馮迪が添んとも其軍装を

かん処小南路の敗率追々小落き早参將苗景竜守備馬定國  
 二將軍も小戦死南路管賊軍の為小陷いと報て歐陽凱是を  
 中々大の仰天一奈何せん賊寇梟勇なる更斯のど。何成以  
 是を防ぐと議す小周應竜躍出く曰總鎮何ぞ斯のどく小梟  
 弱の更成日や量小敵ハ鳥合の賊たか何百万ありといふも只  
 蠅の群る小等一何を患る小足ん我菟向く慶小賊魁と批  
 こきまらんときも潔く言々ゆと歐陽凱も周應竜が相貌の魁  
 偉のく丈高く色飽く黒く眼大のれ必定蓋世の勇あべし  
 と憑りくおりの大の悦び精兵二千餘騎我勝りく授く周應龍  
 是成率一列座の緒將成顧く人々我を処小賊の大將を捕来  
 死ん下々と傍若無人小廣言成吐し馬小鞭をれ菟出一敵



小むく内小明の大軍清の赤がごとく敷方の旗旗を靡し鉦を  
 叩き鼓を鳴し喚れ叫び寄きくる其勢ハ猖獗れ周應竜こそ  
 然んく忽ち顔色土乃づく戦々慄ハ出し初ノ廣言ふも似ど  
 未だ敵と戦ふも及むざる先小衆兵を捨馬然ち逃走一千の  
 精兵も案小相違してごを叶ハと俱崩れ敵の未いごさる先ハ  
 我前ふと敗走一々ハ見苦けんも蹠中々笑ぬ者ハかりり明の  
 将李勇ハ是成ん々余りの変小敵の謀計カんん心疑ハ汪紀  
 虎江國綸陳福壽ホ不意あふ互小相救んと紛れハ勢ハ小  
 走りて掩殺一々ハ中ふも李勇ハ其声雷の〜何咽々も追  
 蒐く其敵將遁とふと叫びれれ周應龍遙ハ是成ん々只魂ハ消  
 るかりり怕る惑ハ身方ハ歩卒ハ蹴散〜行方ちらごを落らせ

李勇汪紀虎江國綸陳福壽ホ巡るハ斬更艾成列〜  
 多し鄭む〜勝り〜一千の精兵大半討其余ハ皆落  
 らせり。此河太平日久〜緒民兵革然ち〜者〜明兵ハ  
 猝小到り成ん々老〜者ハ手成り眼女兒ハ倒小負夫と呼妻と  
 尋の道路小迷〜泣叫形勢方目ハ當られす衣多ハ歐陽凱ハ臆  
 病者ハ周應龍成時ハカハ敵身方ハ嗤笑成應の〜  
 精兵多ク折れ〜或ハ怒り惑ハ怕々如何せん〜商議〜  
 兵ハ勢ハ小吞生緒將ハ士卒ハ惶々〜怖畏成懐死人心悽  
 々たる成ん々只堅く守り一人ハ出〜戦ハ更成許〜即日飛馬と  
 船〜緒方各官ハ緒將成招々小安平鎮ハ副將許雲北路  
 乃參將羅萬倉ホ兵を引〜地き〜歐陽凱ハ人遣〜港



ちりあしよふてたせいの  
周應竜敵勢  
恐怖不戦  
逃走





々小泊王居あまふかみる商船あひらども内地あち入死力しりよく盡つくく防禦りきぎよをおすりも  
勝縛かつばくも明兵あきへい中ちゆう是こゝふはとこ一徳いちとくもたり

一貴智取塗塹

杜君とくじん英えいも朱一貴しゆいつきが針はり受うく北路ほくろより進しん幾いくもる其勢いきせハ利  
力りき然しかもり竹たけ裂されり裂されり向むかへり處ところ般はん然しかもり印いん推おすり當あたるる處ところ尾  
のごく解とける遂すいに四月しがつ廿日にじふにちふき塗塹とがたて出いるる歐陽かうやう凱がいが塞さい（とくじん）進しんする  
更さら櫛しハ齒は挽ひがらくく歐陽かうやう凱がい色いろ然しか失うひひ針はり雲羅くもら萬倉まんそう木きとは儀ぎ  
て日塗塹とがたて陷おちり吾孤軍わこくぐん前後ぜんごより來きたり針はり入いるる因ゆゑ守禦しゆぎよの  
術じゆつ盡つくく吾軍わぐん自然しか氷このごく解とける解とける塗塹とがたて身み方かた咽のど候まちり彼  
處ところ陷おちり春牛はるうし埔ぼする大おほ危あやし不如いかに先まづ此所こゝを引ひ搦なり塗塹とがたて入い  
退ひれ彼處こゝあらく支守さしまもるる是こゝ萬全まんぜんの謀まがたりと儀ぎもり針はり雲くも

羅萬倉らまんそう等ら此議こゝろをと曰い意いし遂すいに三將さんしやう退ひり塗塹とがたて小用せうりゆうをらす因ゆゑ  
小又早馬せまかま來きたつく李り勇ゆう等ら安平あんへい鎮ちんへ出いるる欲ほくく更さら甚し急きゆうなりと  
報ほうむす歐陽かうやう凱がい大おほ不ふあら死し許きよ雲くも小命せうめいをと敵てき防ぼへり此こゝ討うちを  
杜君とくじん英えいが軍野ぐんや小滿山まんざん漫まんりきりき到いたるる歐陽かうやう凱がいハ羅萬倉らまんそうと俱小  
隊たい伍ぶ較かく正せいく戦せん人ひととと塗塹とがたて埋うめり鎮軍ちんぐんも百姓ひやくしやう皆みな明めい以も杜君  
英えい軍ぐんの到いたるる然しかもり只ただ門かど々々小番せうばん火ひ燒やきを紙旗ししほ小帝せうてい令れいの二字  
火書かきすく挿さすく敢あへり戦せん氣き巴はかり歐陽かうやう凱がい城じやう上じやうより逆さかすく是こゝ然しかもり  
んく更さらの意い然しか知しれる敵てき小降せうるる降旗せうしほをと心こゝろ忙いそぎを討うちを  
杜君とくじん英えいハ吳ご外がいと共とも小戦せうせん火ひ毎まい々々暮地ぼち暗くらみを敵てき營えい小撞つくく入いるる  
也なり電光でんくわうの激げきもりくく東西とうせい小追おひを廉れんハ方かた小斬せ拂ひを清兵せいへい散さん々々小並な立た  
らす秋風あきかぜ小落葉らくえつの散さん々々歐陽かうやう凱がい羅萬倉らまんそう亦また力りき及およぶる大おほ



敗走春牛埔。埔乃逃奔。杜君英亦大引勇。此機我失。乃進。進者。下知。逃者。追者。直引春牛埔。小至。歐陽凱。亦敗走。春牛埔。小引。此處。鎮軍。百姓。門。小。引。几。案。之。破。香。燒。帝。令。之。降。旗。を。明。乃。大。軍。我。迎。る。形。勢。を。れ。歐。陽。凱。再。び。仰。天。一。羅。萬。倉。我。顧。と。曰。斯。乃。一。く。わ。く。八。前。後。左。右。皆。これ。明。乃。旗。を。引。今。之。道。乃。吾。今。日。死。然。り。つ。く。國。小。報。ん。と。針。残。され。將。率。三。百。余。人。を。引。く。直。小。引。之。敵。軍。の中。割。く。入。數。十。人。を。斬。く。落。と。死。憤。の。勢。以。烈。く。明。軍。其。勢。小。碎。易。く。四。方。へ。抜。と。逃。散。る。明。の。大。將。吳。外。芝。と。見。と。鎗。我。挫。と。突。く。と。戦。と。十。四。五。合。つ。ひ。歐。陽。凱。我。馬。下。突。く。落。と。憐。む。愈。一。歐。陽。凱。臺。灣。乃。總。鎮。と。兵。勢。

文學小長。世小名高。名士。惜。今日の戦。小。余。我。落。ぬ。羅。萬。倉。中。死。力。我。盡。く。戦。ひ。多。る。が。歐。陽。凱。已。小。討。ま。る。今。ハ。叶。バ。と。残。兵。を。帥。之。一。方。我。斬。開。た。適。ま。く。鉄。線。嶺。の。北。小。出。る。小。思。ゆ。と。耳。根。小。一。声。乃。號。炮。響。と。ひ。く。右。小。ハ。杜。君。英。左。小。汪。飛。虎。乃。發。り。口。を。小。清。乃。敗。將。馬。下。下。縛。我。受。と。句。小。と。羅。萬。倉。中。死。慌。と。急。小。ま。る。と。處。我。杜。君。英。馬。我。蒐。と。世。只。一。刀。小。斬。と。平。ん。時。小。前。面。より。馬。烟。天。を。曇。ら。せ。一。彪。の。清。軍。進。ま。き。是。右。營。乃。遊。擊。孫。文。元。乃。杜。君。英。是。我。刃。を。陳。勢。我。披。死。隊。伍。我。敵。を。待。孫。文。元。先。守。備。胡。重。義。我。出。して。戦。は。杜。君。英。中。汪。飛。虎。出。て。是。我。迎。と。世。兩。陣。一。母。金。鼓。を。鳴。と。刀。鎗。相。擊。劍。戰。空。我。凌。ぐ。干。時。汪。飛。虎。方。天。戰。を。舞。つ。胡。



重義は月々け取てくれ六胡重義も鐵の植か提く敵對し西馬巴  
 の字小糸回し大花袋ちりし汗を流し三十余合戦ひ多から胡重義  
 武技や力更く入心ち兩断小成く馬より落大将討まきく残率何と  
 全うた悉く盜賊脱く降参と。汪飛虎十分勝利成ゆく中軍の杜  
 君英不斯と報トる大不悦び汪飛虎呉外を先陣小備五里前立  
 二進ませ杜君英大軍成帥く後より進發と斯く汪飛虎呉外と  
 二隊小備く進まき行前小總紅乃大旗小右常遊撃と金字小  
 二書し旗成風小翻し其下小孫文元馬成立大音小天乃時を知らせ  
 逆賊心小兵乱を企く民を懼一國を掠奪せんととを思なる孫文  
 元が在成まきと罵りたり汪飛虎大不怒り汝舌の動くあ小惡  
 言成吐と奇姪たれぞ吾の根断く得喜んと馬成能く取手て

れむ孫文元も是成迎く五合七合戦ひし叶くとや其ひん馬成及  
 しく逃まき汪飛虎勝れまど何国まきも適まきと二里むり追蒐往  
 小忽然とく傍から森林の内より王声の號炮響と比く一隊の軍馬  
 咄と起り汪飛虎が軍成二段小断截り汪飛虎おろれ扱敵の針  
 小當りまきと急死引回せ下知成をせむ衆兵周障し引回さんとす  
 小孫文元と引く返して擊まき明將呉外も先小敵の逃る成んを汪  
 飛虎小續れ余まきと追蒐まきと忽ち伏兵の為小射まきれあへ  
 進得む汪飛虎六勢ひ利あまき成んを急小まきんとまき小を  
 敵兵四方成圍く水も洩まきと然も歩ゆる猛將をれど独り勇成奮  
 く遂小一方を歩破り蒐抜く幸れ命成助りたり然し魚士卒八六  
 半折れり此同杜君英の兵来到りたむ汪飛虎呉外遠く小殘



兵戎帥と杜君英が前小到り罪を乞這所小支る清の右管遊擊  
 よく機変の練成用の軍を尋常小あつと云ふ杜君英が白兵書小  
 由敵成侮者敗とくり然ぞ小敵とつと侮とつと大敵とつと怖  
 るふと軍六臨機と変小憊とるふあり今急小進と敵練針成  
 級る小違なく必と身方勝利を得産して汪飛虎兵外を左右  
 小備(旁らぬ兵五百騎を)成勝と一隊と大軍との後小従ひ直  
 小進人と敵陣へ押寄喊成由發せと黒烟を揚と突とる案の  
 孫文元が兵初度の勝軍小油断と在とる大の強動と先隊  
 のとく碎け二陣の勢是を扶んととる處を杜君英猛虎の威と現  
 一例の鏃棍成車輪のとく回とつと八方(難と)と此棍小あつと者  
 馬の中微塵小成と死とるふと清兵膽を寒とつと敗走と汪飛

虎兵外も先敗の耻を雪んと縦横小蒐立は喚叫と直小中軍と斬  
 て入敵を餘小手痛く攻詰らと叶とつと思ひてや孫文元馬必と走  
 んととる處を杜君英直小弛着鉄棍成揮舉と叫びと撃と  
 せと憐むと孫文元盛も首小胴體(勢込馬と俱小舉と)と是  
 成刀多者魂を天外小絶と頭成掩と戦慄た我先小逃と踏倒  
 され推殺され遂小海辺と追結らと逃とる道とつと敗兵悉く水  
 中小投と一人も残らと溺死とる清將劉德紫ハ弱冠と容儀麗  
 一とるは此日ハ紅錦の戦袍小百花の繡したる成穿たれと一ハ美  
 麗小刀と流石溺死せ人更成拙とみり引回とつと戦死せん  
 とる兵外弛合せと捨ふと其美貌を愛と降を勧とるは劉  
 德紫敢と節成屈せん只斬入更を乞とる小黄姓の人其我心と





忠義傳卷之七

臺湾人  
 民伏朱  
 一貴



忠義傳卷之七







成得たり。何ぞ斯不見。兩所破らる。其身も死。奈  
何せん。敵已小塗。壘堙春牛埔。我陷也。此安平鎮の地也。一  
と歎息。止む。時小張阿三。中軍小弛。回りて。李勇。見敵の大  
將許雲。驍勇。一々當り。渠も出て。出る。身方。多兵折る。  
ゆくり。李勇。曰。量。小一匹。夫の許雲。梟雄。なり。何程。の。更。有  
ん。我。鬼。向。三合の裡。渠を引。扱。と。擡。ふ。なり。回。人。已。小。馬。成。出。さ  
ん。と。時。小。張。者。躍。出。曰。鶏。を。裂。ふ。美。を。牛。力。を。用。ぶ。死。此。敵。集  
向。擡。め。し。り。人。の。李。勇。曰。然。を。陳。福。壽。副。人。俱。小。死。  
討。擡。ろ。し。回。れ。余。ど。兩。將。飲。せ。馬。小。跨。り。直。小。城。下。小  
押。寄。喊。を。發。攻。め。れ。許。雲。二。軍。成。帥。殺。到。自。直。先  
小。馬。成。進。斬。廻。ふ。其。戟。鋒。小。向。者。移。く。地。小。成。れ

々れ。諸人。只。目。成。殺。敢。と。近。付。者。あり。張。者。是。成。死。物。々。や  
と。蒐。合。て。予。成。交。る。小。許。雲。其。威。風。殆。も。天。神。の。如。く。張。者。中。小  
敵。と。更。能。と。已。小。危。く。ん。え。れ。堪。ふ。陳。福。壽。三。大。刀。を。振  
く。張。者。成。扶。け。墜。す。蒐。る。許。雲。更。も。せ。と。二。人。の。敵。小。渡。合。精。神  
益。加。つ。ふ。と。張。者。陳。福。壽。心。中。死。遂。小。兩。人。と。敵。と。更。能。と。馬  
成。及。く。逃。ま。り。兵。卒。若。干。成。討。中。軍。小。回。り。許。雲。大。勇。成。告。罪  
を。と。李。勇。大。小。怒。り。汝。小。兩。人。中。一。人。の。敵。を。討。更。能。と。刻。兵。折  
く。更。と。言。甲。成。れ。此。上。我。往。擡。ふ。と。馬。小。跨。り。出。ん。す  
江。國。論。急。小。曹。成。曹。曰。是。音。小。皮。也。此。鎮。の。副。將。許。雲。も。ん  
渠。小。世。小。怕。死。虎。將。なり。古。語。中。の。兩。虎。相。争。時。ハ。必。と。一。方。と。死。一。方  
ハ。傷。と。り。不。如。奇。計。成。以。く。殊。せん。小。王。公。朱。一。貴。強。將。成。折。計。を



可也。紀一授ひひき。今披見して其謀を以て必勝の利有べしと練  
 李勇。是従ひ其書を披見し膝を拍く大に悦び我主公も古の卧  
 竜ふも劣りとも。張看。蘇降ふ計を授け。黄率若干を領せしめ。何  
 まも斬馬刀持せし十字街の中なる曲隘に伏置江國論を命じ  
 て往く敵を倡ひ導しちたり

許雲遺計焼兵糧

同小城中の許雲。麾下の遊擊游崇功。小縉て曰。吾你等し俱小國  
 家の厚恩を受る者久し。正小今力を盡し思成報するの日なり。敵  
 の大軍なりとも量るる衆鳥合の賊なり。死を的のし追拂ひ  
 臺灣の地を恢復せん。賊兵強し力及む人ハ深く戦死し  
 屍を原野に晒し忠義の操を表し人といひ曰。吾も游崇功。是と云

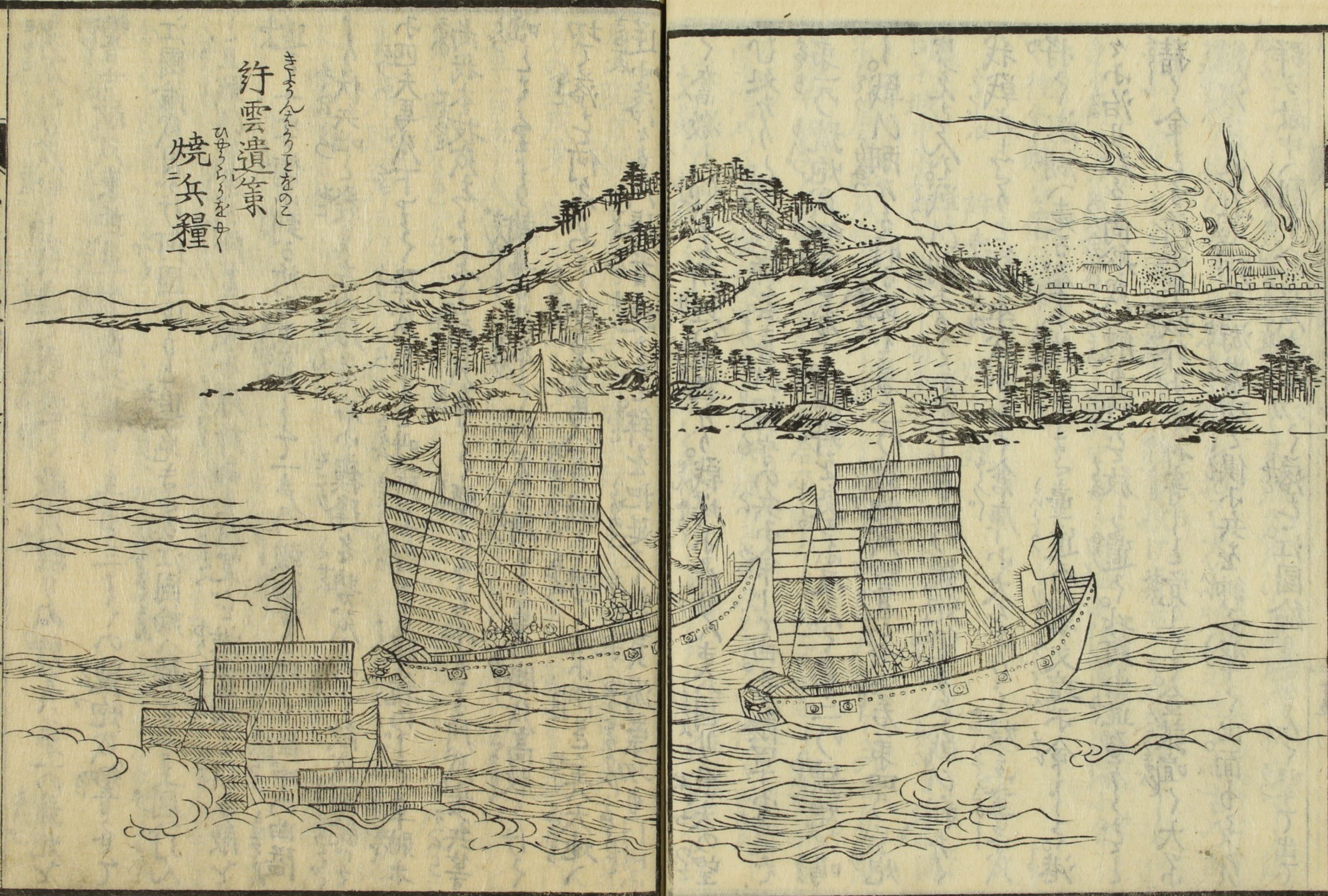
く奮激し。仰とも所理の至極なり。戰場に死せん。更ハ固り武夫の望  
 ひ処なりと云。許雲喜び留守の兵を命じて曰。吾敵軍を遣む  
 第一の號炮を響せし。偕鋒を交るふ及ん。第二の號炮を鳴  
 し。戦ひ酣る時。臨む第三の號炮を響せし。若第四の号炮  
 せえとん。戦ひ利ありと知。第四の號炮を響せし。戦ひ利あり  
 我戦死せし。知士率分ち倉庫に火をけし。燒き盡す。妻子は  
 將く澎湖へ走る。然し。臺道の梁文瑄。小命し。港  
 々泊りたる商船一艘を殘せし。放ち遣す。此所を置登り。とて  
 猪く命し。所小早城外に敵押寄し。覺し。金鼓喧く。大に  
 鯨波せえし。許雲。游崇功。俱小兵を帥し。擊つ。出面も。び  
 群る敵中。割り入當。幸小切く。落と。江國論。是を。ん。て。出



きさうんとうをのこ  
許雲遺谷東  
焼兵糧

東谷遺雲許

東谷遺雲許





身方小力あひ合あ。或ハ進すす。或ハ退ひき。敵あかは繰あリぬ。許あハ弟あひづ一の號あひづ炮たと  
 響ひびせ。敵あかは東西あひま。追あ靡あ南北あひま。捲まリ。弟あひづ三あひづの號あひづ炮たは響あをきて  
 江國あ論あ。目あがけ何國あ。追あ蒐あ。江國あ論あハ敵あをかり。因あ引あん  
 と且あ戦あハ且あ走あ。許あハ敵あハ練あ針あある。敵あ覺あむ。游あ崇あ切あと俱あ敵あと  
 追あ十字街あ。到ある所あハ忽あ然あ。一あ声あハ鼓あ響あ。比あく街あ中あの曲あ隘あ  
 伏あ兵あ咄あと發あリ。左あハ張あ看あ。右あハ換あ降あ多あ勢あ。敵あハ困あ饒あ。小あ匹あ夫あ馬あ。下あまあく降あ。敵あハ叫あ許あ。怒あまる眼鏡あの。草あ賊あハ  
 尚あ我あ本あ技あ。去あらあむと戦あ。年あ々あ。擊あく。所あハ。歩あ兵あ等あ  
 咄あと。主あより。斬あ馬あ刀あ。舉あく。許あ。騎あ。馬あの脚あ。高あ股あ。けく  
 切あて。落あ。何あ。く。休あ。馬あハ。嘶あ。跳あて。地あ。倒あ。主あハ。大地あハ  
 逆あ。落あ。張あ。看あ。透あ。鋒あを。把あ。延あ。刺あ。貫あ。游あ。崇あ。切あ。日あ。回あ。

馬あの脚あ。斬あ。落あ。遂あ。小あ。獲あ。降あ。許あ。此あ。時あ。明あ。の。衆あ。軍あ。許あ。身あ  
 方あの。兵あ。戎あ。多あ。殺あ。怒あ。憤あ。集あ。斬あ。小あ。金あ。門あ  
 の。軍あ。百あ。五十あ。人あ。伍あ。を。配あ。リ。小あ。船あ。居あ。多あ。許あ。忠あ。先あ。小あ。励あ。ま。さ。れ。勇あ。と  
 奮あて。戦あ。小あ。勢あ。無あ。勢あ。を。遂あ。小あ。叶あ。僅あ。小あ。十二あ。人あ。小あ。討あ。た。と  
 是あ。其あ。外あ。敗あ。殘あ。の。緒あ。將あ。張あ。彦あ。賢あ。王あ。鼎あ。サ。諸あ。文あ。員あ。王あ。珍あ。王あ。禮あ。兵あ。觀あ。域あ  
 朱あ。變あ。等あ。弟あ。四あ。の。號あ。炮あ。を。響あ。遂あ。小あ。船あ。小あ。乘あ。道あ。澎あ。湖あ。落あ  
 行あ。多あ。時あ。小あ。安あ。平あ。鎮あ。の。留あ。主あ。弟あ。四あ。の。號あ。炮あ。の。響あ。小あ。力あ。を  
 落あ。梁あ。文あ。瑄あ。を。遺あ。港あ。の。高あ。船あ。一あ。艘あ。を。放あ。ち。り。人あ。歩あ。と  
 分あ。倉あ。庫あ。小あ。火あ。を。け。兵あ。糧あ。焚あ。盡あ。其あ。間あ。小あ。許あ。等あ。の。妻あ  
 子あ。引あ。是あ。の。澎あ。湖あ。落あ。延あ。り。

國姓爺忠義傳後編卷之七畢







淡水管 推寄 城 寂莫 素り 出合

繪本國姓爺忠義傳後編卷之八

陳策針保淡水管

明將杜君英と孫文元が斬塗撃埋成襲取一後八軍威大ワカリ  
向ふ所毎小勝進む所成り汪飛虎吳外等と俱淡水管へ  
攻り抑此淡水管へ僻遠乃地小守る兵僅小五百騎中過  
守將陳策八緒史百家の書小通下就中孫吳の兵書  
小委く智謀深丸良將なり然も淡水管乃前小急水溪の殺  
所ありく碧浪天放漫し人馬渡る每丸使を死要害の地なり  
されども勝績たり明軍更乃次小攻落せよと吳外茂先陣と  
淡水管へ推寄喊をどと揚々小城中寂莫と人音なく  
淡水管も掛か右く用心の体女一もなく素り出合との一人也

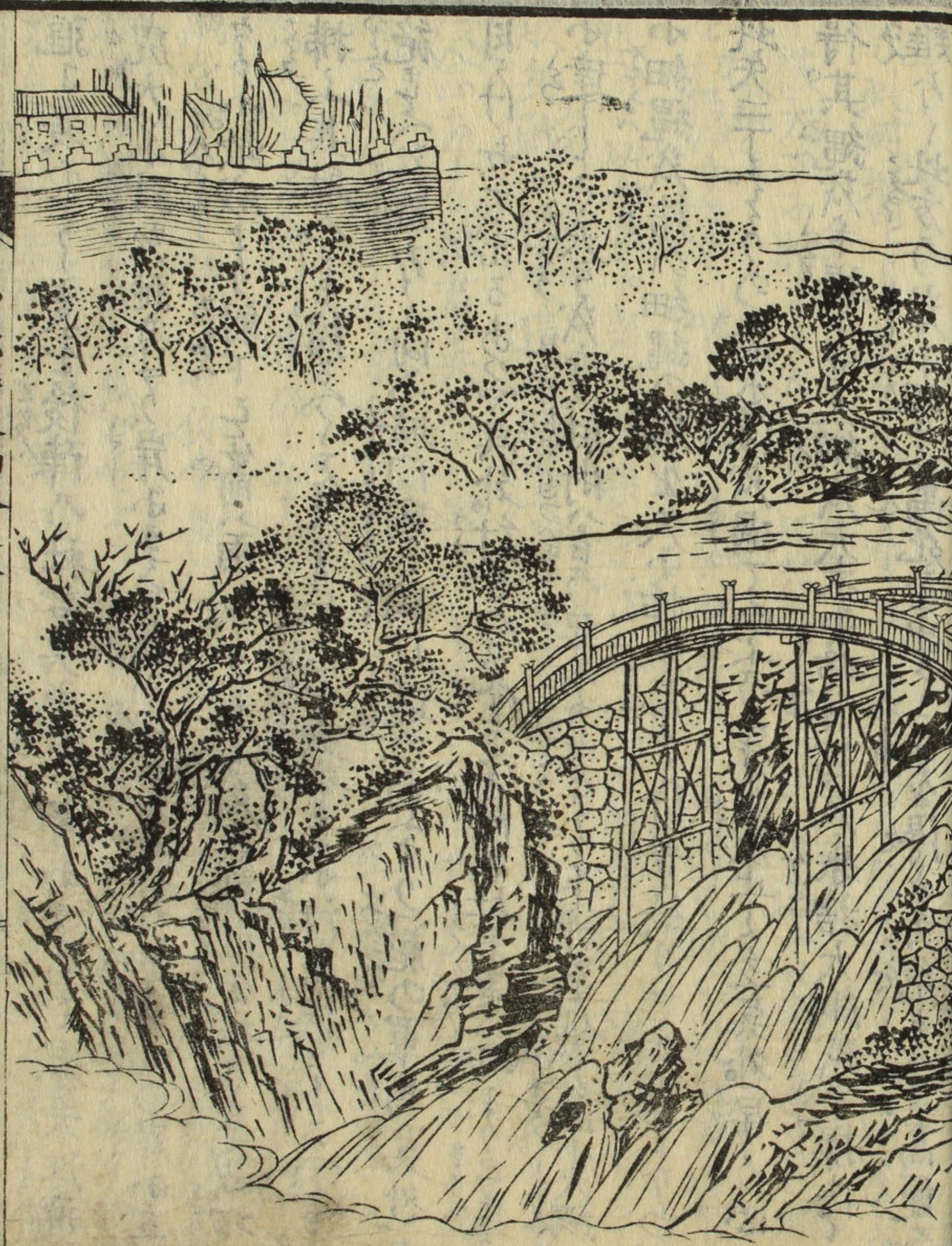


刃をさきりたり。吳外、恥と心付、敵早に落失く空城なり。巴城中、樹梢の鳥雀戯く遊べぬ。其吏を死に城兵伴と鳴を鎮め、謀針を殺せり。撃砕る人爲偽り出合さるるをく、然るに此橋も故をたあし、猥に渡らば、吏を殺し、難くもあれ。水煉の覚ある者、つらう、試よとひひきまことども、敵の謀中、つらう、果さるるをく、小落る吏、やと狐疑を生じ、難くもあし、渡人とり者なり。斯て果し、兎やせん、角やせん、倉穢まらるる所、小忽然とく、金鼓の音震起り。かりひゆよ、ぬ後の山より、二隊の勢吐と出く。備を死明の陣、割く入、四方八面、小斬く廻り、東西南北、紐ちくせむ。吳外が兵不意に伐せり、馬の脚をまき、士卒若干討まき、敗走す。彼二隊の勢、かり、小勝強て戦、成り好まず。淡水橋をこころく、洞と引たり。何地行かん、行方さく、ふんえさりたり。

吳外、大に耻れ、死す。よ、なれ長倉、議して、僅の敵、小斬散す。まき、つらう、安ら、ぬ、され、も、橋、堅固なるぞ。歩渡り、敵城を微塵、小せよとて、自、真魁、小まき、橋、然る、其後、小續く、大軍、押さる、何國も、まき、つらう、と、一、声、の、號、炮、ひ、と、比、く、此、橋、忽ち、砕く、微塵、小なり、隣、下、五、千、余、の、勢、人、馬、も、溪、河、小、投、激、水、乃、爲、小、卷、ま、れ、目、下、小、急、水、溪、乃、水、崩、と、なり、ぬ、此、時、城、上、小、旗、旗、を、颯、と、揚、一、齋、小、吐、と、こ、ろ、ひ、つらう、元、来、是、ハ、陳、策、を、謀、略、中、く、兼、く、水、底、中、く、橋、杭、を、大、綱、を、り、て、拵、り、遙、乃、と、死、小、磔、させ、敵、の、渡、る、窟、中、死、見、と、多、し、炮、声、を、各、回、小、曳、倒、させ、り、なり。吳外、幸ひ、衆、兵、小、魁、を、つらう、故、いま、橋、の、崩、さる、以前、小、渡、り、果、一、命、死、落、ま、り、と、魚、只、一、人、敵、地、小、ま、橋、ハ、落、た、り、水、ハ、逆、捲、て、船、石、を、も、流、を、勢、ひ、を、れ、を、憫、ま、り、芒、然、つらう、斯、先、

忠義傳後編卷之八





忠貞傳後編卷之八

三



と久々の  
杜君英  
攻淡水  
左廿七  
管

忠貞傳後編卷之八



驅日斐あやうし斐を後陣の杜君英小告る者ありとれむ。君英汪飛  
虎。大ッ小發死馳まきり。岸小まきく遙小望めむ。吳外。獨身向の岸小ま  
々々小敵城より射下と箭前ハ雨のどくたる成吳外。劍を抜く是成切  
拂ふ其跡今も射るく入るまきむ。君英亦手小汗成握るといども  
絶とべた謀なく。因小城門開と開け。遙の向より一彪の軍馬吳外と  
目々けあて出るあや吳外。射まきゆん入る所小杜君英ハ幻より弓馬  
小達し。よく大弓成彎射術ハ古の習ゆも少なる手煉をれむ。急小大綱  
小細繩成結。細繩の端を矢小拾り忘る。許彎絞りて兵どもをから  
此矢二丁まきりの急水漢成過て向より岸小發止とま吳外。早く心  
得其繩成手操とせ大綱成大木小拾付馬成乗捨大綱成手操は  
難なく。此方の岸小回り。萬死を出る一生を得る。危もまた高運

り。此河城中より出て出る勢。早吳外が回りたる成入る。齒切を  
一彼大木小拾り大綱を切捨んと。杜君英遙小是をん。此綱  
を切落さむとハ叶いと大弓小矢を番ハ女因固く切く發小。矢坪を  
違へど切んとせし者。の真額を水日巻。逼く射貫り。此弓勢とらて  
敵兵戦々慄々。這々城中へを逃入る。然ども大綱ハ切落されしを  
残念なる。杜君英大ッ小吳外を喝と曰。我綱を引んと欲せしを彼  
綱一筋を橋とて身方の勢成渡さん為なり。然を你々向の岸小居  
る。天のまき所ハ幸ひとせひしふ。何ぞ敵成怕と鈍々と逃回り敵小  
綱を切る。斐成まき。你今夜乃中ハ針略成運して。再度繩成引く  
我軍成渡とべた路成せよ。り。斐とぞん軍法小行んと厳く命  
トる。吳外赤面とく大ッ小怕と終夜綱を引る。方便を案じり

尺五寸五分

二〇



斯く大軍川渡りて、べんやうのたふさく此所陣をとりぬ固り橋  
 成断れ。敵軍渡る必死やうなれ。小吏小夜討成るる元佐の由  
 有まよと心成強し衆軍熱く寐入るる。夜半の頃忽ち敵城小  
 三声の號炮ひびぬ。明軍歩く須驚敵の寄来ると周障翊き  
 起出く臨らんる。敢く敵の寄る形勢もたぐ。遙小城上成るる  
 とも火の光もなれぬ。諸八別の更けしとて又陣屋へ入く寐しるる  
 出るる何國の程もたぐ。何やん駭しく東に出く地小響く  
 とくまどしぬ。是常更小あふとて。明の陣中再び強だあふ。是  
 陳策が謀針中。敵の寄きとさる三日以前小。人敷を遣しと洪水  
 溪乃水原成断截く。一軍成ふく水成守せ。合図の號炮成安ど堰  
 田たる水成一度小切て落とせし。計略を定め置るる也。今夜も

守る者城中の號炮を中と比し須驚時分より堰止たる土  
 石成一度小切くたぐと程小。忽ち逆浪天成漫しと逆巻下ふ。其  
 勢ひ泰山成も押崩しつぐ。るる溪水溢て明の陣中溢るるへい  
 是周障しなる明軍。俄の洪水小膽を冷し須驚大水よ洪水よと  
 上成下と騒動とさる。片時小回小水深た更一丈小餘り。大浪り  
 漂はされて我先中背の山へ登りたる圍さく暗し地理はさる  
 人馬大半成失ひたり。斯く夜も一更と明なれ。明兵安心成安ん  
 所小。山水のちるの漸々小引く以前の小く常水となりぬ。杜君美惘  
 して只憂成るる心地して緒將小縲て曰る。僅る僻所を攻め  
 一戦成も遂むる。斯くたまぐ人馬を折れと安んぬ。真小陳策が  
 智慢りし。急小此処を引謀針を定て此怨を散むる。二十里



退く陣中兵糧已小盡多れハ斯てハ叶はずと急小人  
 成安平鎮へ走らせ。李勇小兵糧成借少と云送らせ。此時李勇ハ  
 安平鎮成陥るも。奈何せん安平鎮の兵糧ハ許少計策成遺る  
 焼盡るも。李勇も兵糧小成欠多れ。其使者小向ハ杜君英の  
 特ニ安成更なれども。敵早く兵糧成焼盡して我多陣中も已小兵糧  
 尽んも。然れ君英乃需小應し。你回て此方ハ成を告ると言  
 わど。使者力なく急くる。杜君英小斯と報む。杜君英大ハ怒り李  
 勇匹夫我ハ能大功成立人更を妬む。更成左右小倚り兵糧成借む  
 已二人功を立んと成り。奇姓なれ。急小内地へ攻入諸人の眼を  
 眩し程乃大功を立李勇匹夫小鼻あらせんと憤り。是より深く李勇  
 成恨む。互小軍書成通せむ。李勇も此方ハ成を洩せ。甚ハ怒

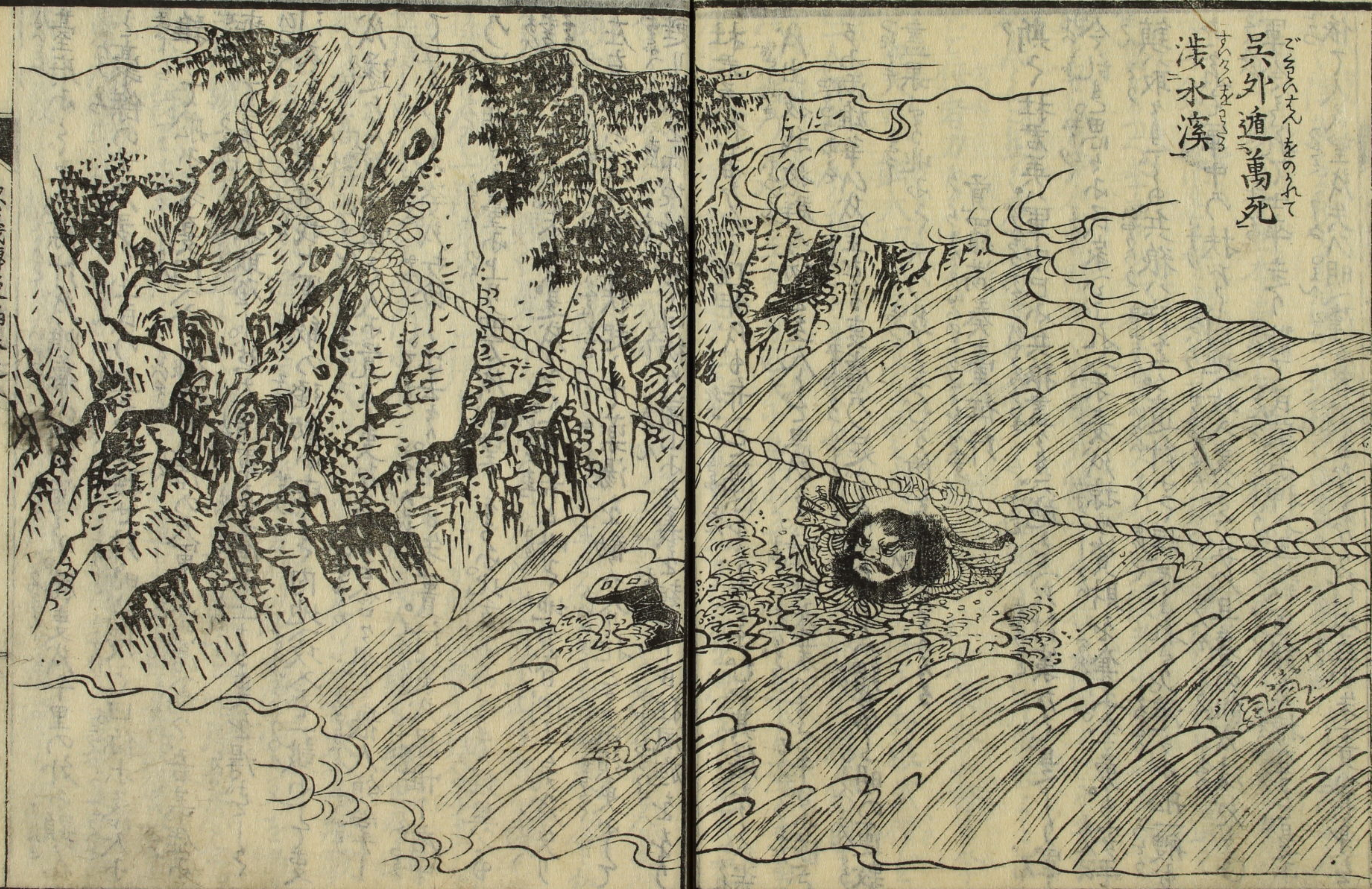
杜君英何者方成を理非成由弁む。隔心をさし。其議なく。渠  
 成出抜我抜群の功を立んと成り。嗚呼大業いま。平小成  
 小西雄争ハ成生む。更慮乃足らぬ。成り。六縉な。明の運數  
 盡果。兆も。天乃成。成る所。是成なり。

覺羅滿奏臺征計

斯く杜君英ハ軍中已小兵糧盡る。絶む。成計策なく。是より軍  
 令乱し。思々小民家へ。成入。采妻成掠り。資財を奪ふ。李勇も安平  
 鎮ハ取ら。兵糧ハ許少。遺計小。焼盡れ。港々小船一艘  
 成。軍中の扶。内地へ。攻入。更ハ。且暮の飢成。凌だ。軍  
 軍令。散て。民家小。押入。五穀金銀を掠奪。是小  
 依て人民望成失。明へ降る者一人も。なく。行ぬ。成。朱一責ハ。其身



ごちんせんをのりて  
吳外道萬死  
すんまを



山崎闇斎画



臺府ふらり。謀計我帷幕の内運。勝更然千里の外頭人  
 と豪傑の士は多く土民の安否を扱せ計略を授け曰。你亦落人  
 雜りて船に乗夏門へ令。徘徊せよ清の大軍臺灣(向)る吾其虚  
 乘して廈門を乗取。然を清軍臺灣止る更を得。とて  
 引及ぶ。其時我大軍敵の強動に乗じて内地へ攻入。一鼓にして更  
 成遂げん能。慎む人小覺る更かれと云合。これ衆人領掌  
 ておのり。小姿はあし。出去る。儲一日朱賈。計策を思惟。府中  
 の半崩。臺の上り四方を眺望。多る北方小ありて。怪異。ゆ  
 々。とと。朱賈是。成。一。声。若。と。叫。地。小。日。倒。一。氣。然。失。り  
 左右大。小。護。急。扶。起。て。藥。湯。を。勸。入。り。抱。こ。る。小。須。更。ふ。て  
 魁。り。天。を。仰。だ。歎。け。曰。初。ち。崗。山。小。大。義。を。起。せ。日。狂。風。旗。を。を。り  
 今。や。慶。氣。身。方。の。凶。然。示。と。嗚。呼。上。天。明。成。佐。さ。る。成。奈。何。せ。ん。是。ハ  
 闘。争。の。氣。かり。我。が。諸。將。を。と。と。曰。士。軍。せ。ん。と。と。る。者。あ。る。下。命。あ  
 る。と。と。て。天。成。眼。が。夏。ハ。い。が。何。あ。り。久。急。小。府。中。へ。う。兵。を。帥。く  
 操。小。と。ん。一。崑。身。ま。く。出。張。と。干。時。清。の。水。師。提。督。小。姓。ハ。施。名。を  
 世。標。と。い。人。あり。今。厦。門。小。居。々。々。が。智。謀。萬。人。小。勝。を。經。世。の。才  
 あり。一日高樓小上りて。遙小大担口の水。面。を。見。り。せ。む。大小。の。船。數  
 百。艘。厦。門。小。望。ま。く。適。き。き。れ。王。老。幼。男。婦。岸。小。漂。泊。て。父。を。尋  
 子。小。號。ふ。其。声。愁。然。と。て。海。濱。小。満。歩。小。忍。び。む。世。標。是。成。ん。と  
 甚。小。深。直。更。小。あ。り。と。急。小。人。を。遣。して。其。顛。末。成。絢。せ。初。く  
 臺灣。の。變。成。せ。く。大。小。後。是。ハ。由。り。に。國。家。の。大。更。なる。急。に  
 兵。を。發。し。く。救。ふ。と。其。准。備。を。な。と。所。小。忽。ち。澎。湖。より。羽。擧。到



来し安平鎮連く敵乃為小陷きし總鎮歐陽凱副將鉞之其  
外の緒官戦死し臺灣の地全く賊徒の有となりいと報む。施世  
標又大の諫れ金門總鎮黃英小縉て曰。臺灣の地只六七日の間  
小陥る何ぞ斯速くや。是察する小敵小兵法小精れ名將ある  
か多し。今卿民百姓等乱れ避て此所小逃まきしれり。其船數百  
艘内地入んこと。借慮小賊徒乃魁首一舉小して臺灣を陥る  
程の智謀の者なれ。手下の者成落人の群小雜（来まこと）た小非  
ど。是内地攻入第一乃謀略小し。若此針策成用るなを廈門ハ  
敵の手小入ん更案の内なり。所謂毒成臍小濯乃練針かん  
然を决し流民を陸上登りて議と。黃英其高論小伏し士  
率小命して一人小船より上る更成得ず。急飛馬成仕夜を日小

副朝廷臺灣の變成報む内廷此變成告く百官顔色如菜倉  
皇失措。堂々と列座。烈位乃緒臣只面を見合せ維有く一言と  
發する者なり。茲小總督部院覓羅滿緯ハ保し人あり兵法ハ  
孫呉ハ奧妙を究め海世纏天乃秀才なり。公階を進し出奏して  
曰。先小其堂地の百姓小噲元を殺せ。其の死を奏せし。千丈乃  
塘も蟻蟻乃攻より崩る。乃の急死官人を差向く其罪成糾  
し。大臣乃奏し。朝臣皆深く慮む。今泰平の同  
奈何と兵を動かさる。今云争ひ止む。果し。今日臺地  
兇徒乃為小陷る。端とをみ。借天下の地勢成見し。廈門を國  
家第一乃要害。臺灣の咽喉也。内地の門戸なり。今般の勝敗此  
所小究まり。今臺灣陥るといふ。幸小澎湖猶敵の有となり。と



敵於征伐とるの回る止り今臺地の人民賊難々怖悸海小  
 沿く發た奔了んころ民の基せいで先是成鎮とんむ有へる  
 而て後臣不才ふいも官軍が總領して厦門小往君の威福を  
 首小戴た機を察しく愛お懼し賊軍成滅しんを年旨福々  
 して一言のよむまかく啓奏し々皇命さく大に喜ぶふの卿  
 が演る処理の當然ふして一々朕が意小合り賊徒征伐の二条の卿  
 小任とのふ隨意小討ふよと令せざる羅滿保願首再拜して朝  
 成退れ是より寢食をこまれ計策を方すの内小運下し手  
 小批を停むと身席小帖む先撫都院呂猶龍小謂て曰今人民  
 臺地の逆亂を怖悸て老幼を携へて逃へ奔る御辺往く鎮むる  
 是國家の大幸なり呂猶龍喜ぶ臣願くは往招を以て宣諭し百

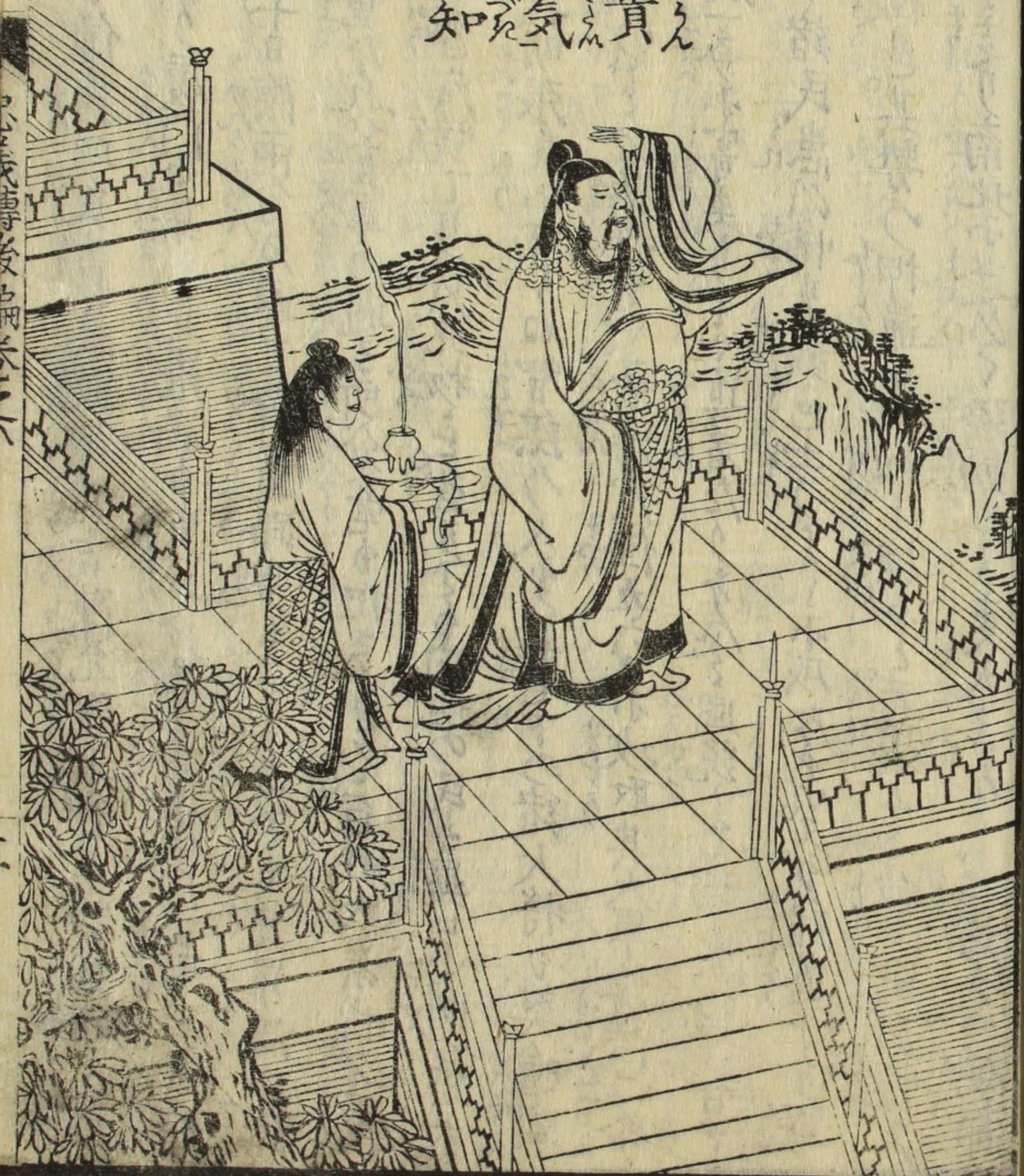
姓成鎮のんよく兵成帥と出て去り覺羅滿と急馬成以て飛擲  
 成緒方運り陸より地きく下民いよく躁た悩む登り列將  
 手勢成帥と水路より直小厦門へ出ると云送り其身も出陣の  
 準備を頼り急たわら乱成鎮人へ慮り

諸國官軍出厦門

去程小都城の飛馬緒方羽擲を傳へる程驛道の韓安及  
 び督標參將王萬化撫標遊擊邊士偉のめく兵成帥と軍艦小  
 たり乘厦門小赴く將軍標游擊魏天錫本部の兵小督標  
 の兵を統る南臺の水道より日く厦門小赴く其余南澳の總  
 鎮藍廷珍陸路の提標中營林政雲霄遊擊手金作礪海壇鎮  
 標遊擊李祖興化協の守備劉永貴門安堂の守備葉應龍漳



朱一貴  
見雲氣  
大義知  
可破





浦の守備孫明良黃巖鎮標游吉陳允陞ホ皆手勢然領し  
 水道より厦門集る。寛羅満の官軍が率いて厦門へ赴きたる時  
 五月十日陰雨旬が連て降道路歩まざるごとくも寛羅満の號  
 令嚴重なれば官軍の過る所分毫も犯さざる。百姓大に悦び道  
 が淨り香が焼て是が見物とせざるも内地の民も異口同音の總大  
 將軍孔明張良の奇なりぬ智謀の人なり。麾下の諸大將も樊噲周  
 羽張飛の如くは猛將なり。臺灣は僅五六日小攻取其大軍海陸二路  
 小より一各小寄来り。もや近者たりを今風貌して米粟の價日々  
 小騰り諸民患ひ怖る顔色土の如く小成たる也。又も緒道より戰  
 勢を徴し其勢の押通る所却り掠ると云出して益々戦ひ慄る  
 東西小走り南北小迷ひ強動する度大なるも。此より撫都

院呂猶龍人を分て紹命公宜官軍の皆海路より厦門へ向ふ  
 民の米錢を些少でも犯り掠る者必ち刑戮を加へらる。あつて百  
 姓等心を安んじ業が勤む。と觸る。これに萬民始て心を安  
 んず。漸々小強動鎮アたり。寛羅満より使をわたりて浙江廣東乃米  
 穀の延別建列ホの米粟數万石たり。倚る。頭小米の價減じ  
 て平時より賤し。是よりして緒民益歡喜し。基地の乱がと心ま  
 ず。寛羅満より緒軍へ金銀やび蔬菜やび成よ。り。勞ひ令厳  
 しく兵船皆伍戎浦用要あり。二人は岸の上より更成終り銅物  
 おまを其價ひ民の乞ふ任じ。推して民の財物奪奪者あり。を  
 嚴く軍法成を。是が總て諸の澎湖軍使が遣して施世標  
 が調度を安んじむる。募り集りたる勢。多くなり。船甚く不足。報



を覺羅滿堂の急小士卒分ち海小添て高賈船を僱ひ其價  
大船一艘小金七十兩をよへる。是を安傳て暫時小大船の集る  
度二百余艘小舟びぬ。其中小國恩を報むる為小とて價をうけ  
ざる船多し。且杉板頭の小船三百余艘集まり。是小依て大小の兵  
船五百余艘を得たり。今ハ集る兵を載る小余り有る。施世標喜  
ば。復た。覺羅滿堂の緒軍多く牌成とす。斯て提督施世標已  
小前船成啓け。是か為小阻を隔らま。臺湾の音信兩日通せ。と  
干時覺羅滿堂臺湾より逃回りたる士卒小臺地の動靜成詢小沈水  
營の陳策の奇謀をり。款成怒。追退け。独り孤城を持  
堪たりと報む。覺羅滿堂喜んで曰。陳策二偏城を守り。尚存せ。る  
をなむ。賊軍乃虚実を安傳小使あり。急小遊暇手張賊守

備李燕劉錫千總李郡等成遣して陳策を救せ。ま。多くの兵  
糧を送る。又南澳鎮の藍廷珍督標參將王萬化を呼て曰。却辺ホ  
港湖小往。提督施世標小見。我言成傳。俱小敵を謀り。いへ  
察。と。小。明賊。鳥令の奸民。滿盜の属小して。大將たる者。女。を  
む。利を。各。以。久。く。して。自内。変。成。生。ぞ。産。し。只。急。小。攻。む。を  
せん。一。奉。小。して。勝利を得。んと。即ち。師の。字。を。書。た。大。旗。二。流  
を出。して。曰。此。旗。を。推。して。藍。廷。珍。ハ。南。路。小。より。向。ひ。王。萬。化。を。北  
路。より。向。ひ。施。世。標。ハ。中。道。より。向。ひ。三。方。より。を。び。發。せ。よ。と。功。を。會。負  
り。令。を。犯。し。按。蒐。せ。む。假。令。勝。を得。たり。と。軍。法。を。背。の。刑。小。行。ん  
又。錦。の。囊。を。取。出。し。二。將。小。と。て。曰。此。裡。小。針。策。成。入。お。せ。り。御。辺  
ホ。鹿。耳。門。到。ん。と。時。閑。死。ん。べ。し。自。然。勝。利。を。得。る。事。あ。る。ん



と命じ、藍廷珍、王萬化、拜謝して針を受て退死出。督院、覺羅滿親海辺まで送り、兵糧をくび、軍用の器械雜物まで悉く運送し、斯の如く羅滿、厦門に在て船制置を以て萬隻備はるる。去程、藍廷珍、王萬化、艦を解て厦門を發し、澎湖の如く絶世、小見、羅滿の針をのべ、俱小軍議をなして出陣を急死する。

絶世、集兵、澎湖

斯て絶世、澎湖に集りたる緒大將を點檢し、南澳鎮の藍廷珍、林政、王萬化、邊士、偉林、秀、王良、綏、薄、有成、金、作、礪、范、國、鄭、耀、祖、魏、天、錫、胡、璟、郭、琪、齊、元、紳、朱、文、銜、希、賢、守、備、林、亮、蔡、勇、呂、瑞、麟、孫、益、良、鄒、文、祥、康、隣、魏、大、猷、劉、永、貴、葉、焦、龜、原、任、游、擊、李、水、子、祖、棟、允、陞、ホ、リ、諸將二十餘員、小調練したる官軍、覺羅

滿の招に應じて募り屬する勢、成、併、都、合、三、萬、六、千、餘、騎、海、路、の、勢、一、萬、二、千、餘、人、軍、令、茲、嚴、重、一、隊、伍、整、敵、軍、の、虛、成、行、八、驛、の、重、威、方、干、時、六、月、初、旬、朝、廷、より厦門の覺羅滿が管中へ、詔命到る。督院、羅滿、沐浴、齋戒して是、成、拜し、續、其、詔、命、曰、臺、地、浴、國、蒙、仁、息、歸、化、已、久、猝、有、反、叛、無、知、可、憫、當、用、以、更、生、之、路、詔、督、臣、宣、布、至、意、曉、諭、臺、地、百、姓、督、院、羅、滿、續、畢、て後、水、上、小、舟、を、れ、武、吏、兵、擇、之、出、臺、灣、遣、て、百、姓、亦、小、詔、命、茲、告、諭、さ、し、必、然、亦、再、び、勅、詔、到、其、詔、曰、勅、浙、江、將、軍、帶、披、甲、二、千、赴、閩、協、征、兵、到、浦、城、民、頗、苦、之、

覺羅滿、了、了、熟、思、惟、一、多、臺、灣、の、賊、軍、成、征、伐、し、る、の、勢、已、小



足り。然も施世標智術殺小踰之れを寇を平ん。更時日成録と云く  
 む。今浙江小屯と云く兵多く却く良民を煩とふ到る。是成急小制  
 林示せしんを大いなる災変を生むと危しとて自ら書翰を去り免飛  
 馬成終夜奔せり。無都院呂猶竜へ達せり。使者馳馬小鞭  
 しく直小呂猶竜が言へり。羅滿保り書成呈し之れを呂猶竜  
 急死被見せり。小急小宮兵を浦城遣し。浙江の兵乃不法を制し  
 民の憂愁を拂ひぬと書し。頭て按察司董永文小令して浦  
 城の兵平の狼藉を制せしむ。董永文命成領じて直浦城  
 小往くん。小民家多し。浙江の兵小燒ま困窮悲愁と。按察司火難  
 小逢たる民ども小米錢若干成分ちよへれを衆民拜辭して喜ぶ。更  
 限りなく安堵のむ。小をなして擾む。茲小署福府馮墜と強幹の

才あまふ。董永文萬吏馮墜と商議して吏成り計ひぬ。然も浙江  
 の兵士小省の地小いり推く民家小省せん。董永文也ろ死馮墜  
 と議して曰。乱成靖る小民を安んず。成以く木と云く。浙江の兵民家  
 小省せん。遠くと云く。肉喪成生せん。是成奈何せん。馮墜曰。是  
 何の憂る吏。あらん。令成下し。諸所小寺院小省せん。妨ありと  
 云く。董永文。実もと悦び配當して寺院小省せん。是小因り百姓  
 商戸大い心成安んず。

吳龍偽募往澎湖

却說臺灣の千總吳龍。六郡縣卿府と云く。連り陷る。成り部下の  
 兵を帥く。朱貴小降す。ぬ。朱貴。大い喜ぶ。手はく。財帛成り。酒宴  
 を設て。饗食應。偕曰。我今御辺を得。天の賜なり。因り大吏を伴ひ



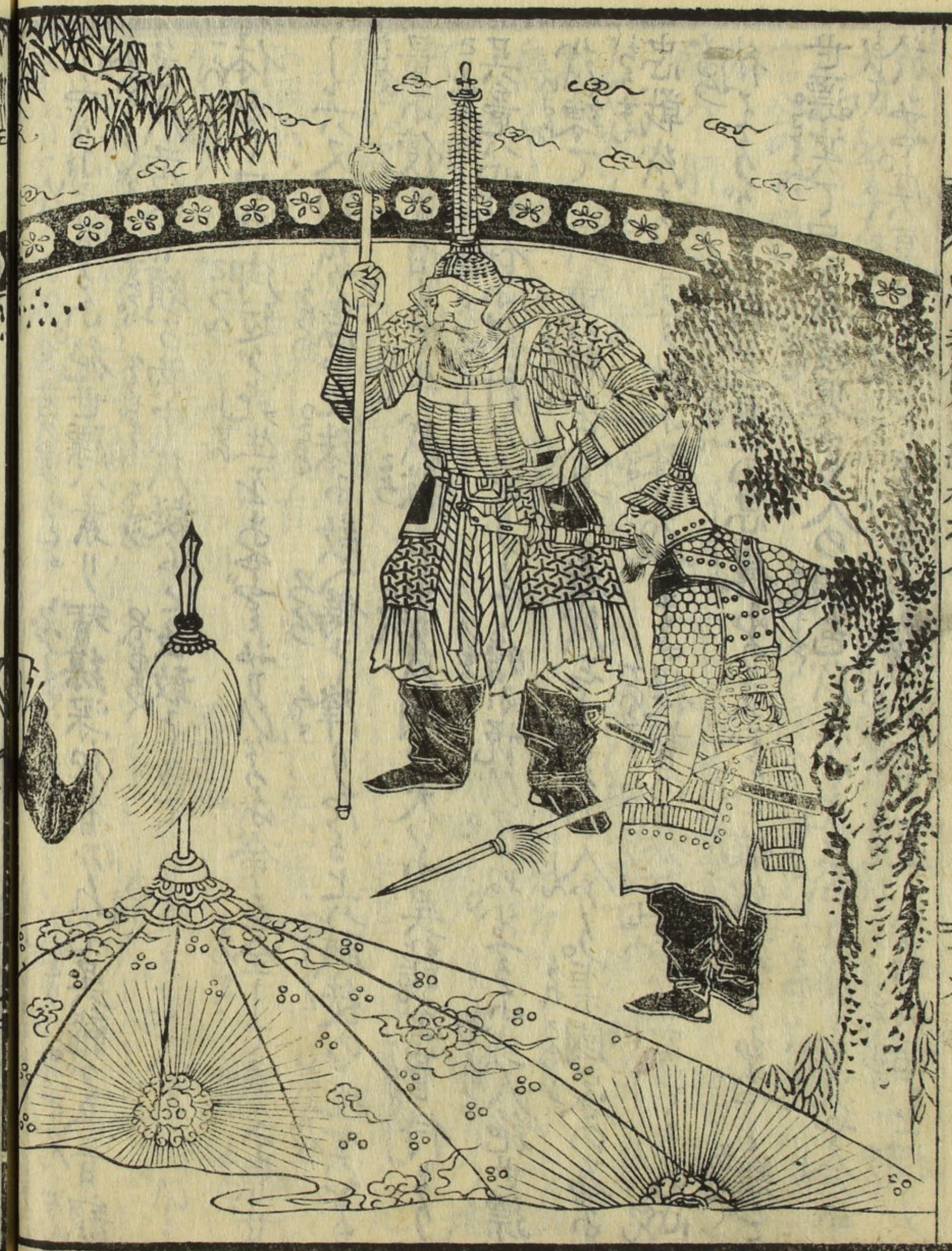
大功を立たるんを。然れども恐るる脚辺の肯ま。然るが呉竜曰。下  
官公の不殺の思。然れども心を傾けて仕。死をり。思子。酬んとす。  
譬の肝腦地は塗るも敢て辞せ。朱貴。其愛。ど。然れ顔色。察  
して大の悦び。出。脚辺部下の兵を帥。船に乗。澎湖。往。暮り  
應。ど。偽。清の軍。方。如。斯。々。計。策。を。か。せ。や。耳。小。は。有  
て。詳。教。脚。辺。下。此。謀。成。為。遂。大。功。成。就。の。後。此。臺。灣。の。地  
成。上。の。事。と。い。ふ。ど。呉。竜。大。小。喜。び。と。出。る。生。涯。の。面。目。何。吏。是  
小。過。い。て。と。領。諾。一。頓。首。と。出。去。れ。を。朱。貴。謀。計。を。ま。り。と。悦。び  
り。斯。く。呉。竜。兵。成。帥。澎湖。到。り。施。世。標。小。見。と。曰。愚。臣。孤。力。成。以。て  
賊。の。大。軍。小。敵。と。す。吏。能。を。と。假。小。偽。く。降。す。時。節。成。見。合。と。所。小。提  
督。諸。方。乃。兵。成。募。と。い。ふ。と。史。賊。塞。を。通。す。と。募。り。小。應。い。と。真

い。や。小。言。多。小。施。世。標。ハ。素。リ。智。謀。深。た。者。な。ん。と。呉。龍。が。五。音。顔  
色。成。考。へ。頗。る。胸。中。成。疑。と。色。成。表。す。大。小。悦。び  
休。ゆ。と。曰。我。脚。辺。が。死。生。を。あ。ま。ず。サ。カ。ハ。多。小。命。を。全。し。て。募。小。應。せ  
し。上。又。何。成。患。と。然。殊。小。敵。偽。く。降。り。た。る。上。賊。徒。の。虚。実。と。も  
量。小。使。り。者。と。牛。成。殺。と。喜。成。用。大。小。呉。龍。を。管。侍。り  
呉。竜。ハ。心。の。裡。小。謀。計。を。ま。り。と。暗。小。悦。び。居。ぬ。然。る。小。或。人。施。世。標  
小。練。て。曰。呉。竜。ハ。財。を。貪。り。義。成。去。と。さ。小。人。成。渠。國。家。の。為。小  
忠。戦。然。と。げ。ま。ず。敵。小。降。り。今。ま。提。督。の。募。小。應。と。突。て。その。心  
術。と。り。と。何。と。一。應。の。思。慮。あ。り。及。か。と。彼。成。許。し。と。と。難。と  
世。標。笑。て。曰。小。孩。兒。も。人。の。顔。色。成。々。喜。怒。を。察。と。況。や。余。小  
於。女。疾。集。が。及。心。を。ま。り。と。い。ふ。も。偽。て。許。し。置。し。其。実。情。を。探。り





せいせうまん  
施世標虜  
及将吳竜





知く後殊せんが為かりとて。腹心の者小舎して。吳龜が勢のち小  
 其貨愚かる者を賺とて誘きつらせ酒肴を致し飽まぐ飲せ  
 其酔る人まゝ種々小批を問せ多小狷其色を露しぬ是夜依て  
 金銀を予へ其心を湯し尚も賺し問多小下賤乃ち其心小  
 乃ちされて曰実ハ我が王朱一貫と謀計を合し募小僮むと偽官軍  
 臺灣小出たも其虚小乘じて内地攻入所々を放火せんとの謀めて  
 小酔小乘ど明軍の動靜を吐し出たり世標。出てまを社と  
 かり先件の士卒縛て卒入せ諸帷幕の内小兵伏置て  
 使以て吳龜小高議とて死吏ありと招死寄。吳龜ハ何吏や  
 と何の要心もなく世標が陣まきつら。然る小忽ち帷幕の蔭より力  
 士も多く頭を出。吳龜を曳倒して縛ら頭て世標が前(曳行)ね

吳龜大に疑死提督何也小臣が捉しち多まとい絶世標大に怒  
 眦と睨て曰息を忘ま國を賣逆賊此期小替んても尚我を欺ん  
 ちもや。你が隠謀ハ我疾知り敢て口は開く吏たれ。吳龜が提  
 督のつと人の縁を信じて過ち多小明將朱一貫ハ謀計深支者  
 かり流言が傳て相疑しち曰士討まをんと針るをふし。能事  
 詳密小察しち世標。多しく怒り。反賊かんと妻言かるとて遂  
 小曳出して首列以て軍神祭祭り糸を幸して江を祭り。十六日  
 未明より師前進かたり。督院羅漢。厦門小駐軍。兵糧小糧。糧  
 道の韓奕小命して調撥をせ。又又真化協なり。小副將朱杰を  
 招で中軍の大將と。督標都司初有徳。守備金國。梁草維心。水  
 師提標。參將倪真。と俱小厦守衛。金門鎮黃英。督同游吉



王良李殿巨李經世王安黃元崑黃元溥何重甲亦名澎湖の副  
將羅光乾と俱小澎湖を堅む斯く船千の大軍十六日の午乃尅鹿  
耳門小近著々々小灣鎮監廷珍覺羅滿が錦乃囊が鹿耳門小到ん  
とさる内関く登りと教へ必かひ出し囊を拆れ見小只十字が書曰  
可合併攻鹿耳門遂並進

此計策が囊小へ入ると一八番事が敵軍へ漏るとまが為なり王  
萬化も拊死り々々大の小悦ハ緒軍へ綱合せ緒方一齊小鹿耳門小を  
推寄々々抑此鹿耳門之港路の狭入り昔より天設の險と稱け  
軍艦急小往が。世標思慮が運じ水煉の者小水底の水港を  
探せ其港小標木が是が紀とて漕行小官軍の船も礙る事なく  
國姓爺忠義傳

繪本國姓爺忠義傳後編卷之九

附録臺灣紀卷之四

目録

- 錦囊計破鹿耳門
- 世標定計復安平鎮
- 李三男突戰乃圖
- 朱一貴柳原伏地雷
- 朱一貴遠討救危急圖
- 藍廷珍破一崑身
- 火坑乃討清兵を焼圖
- 杜君英驍勇乃圖
- 世標叠陣破明兵 同圖



繪本國姓爺忠義傳後編卷之九  
錦囊計破鹿耳門  
于時明兵清朝兵募于臺灣小向一...  
炎暑燒がくく地乾丸草搗る...  
とあり殊小頃日北路の李勇と南路の杜君英と...  
軍成企て其虚を窺ふと緒卒安死心なく且鹿耳門を天鼓の險...  
難ありて容易小船を寄ると能はざる殺所をれば是彼小はけて...  
備甚く疎かるふ官軍の衆網ト合せ三路の勢一日小推寄太小...  
乃兵船海上小元満て旌旗雲のごとく鎗戟日小晃々うて漕まき...  
及び々々明軍大少仰天ノ戦慄いま二戦あり及むざる先小早拔...  
々々小成望主が落行者敷をまきと去程小提督龍世標林亮重

繪本國姓爺忠義傳後編卷之九  
錦囊計破鹿耳門  
于時明兵清朝兵募于臺灣小向一...  
炎暑燒がくく地乾丸草搗る...  
とあり殊小頃日北路の李勇と南路の杜君英と...  
軍成企て其虚を窺ふと緒卒安死心なく且鹿耳門を天鼓の險...  
難ありて容易小船を寄ると能はざる殺所をれば是彼小はけて...  
備甚く疎かるふ官軍の衆網ト合せ三路の勢一日小推寄太小...  
乃兵船海上小元満て旌旗雲のごとく鎗戟日小晃々うて漕まき...  
及び々々明軍大少仰天ノ戦慄いま二戦あり及むざる先小早拔...  
々々小成望主が落行者敷をまきと去程小提督龍世標林亮重



芳我揮死令我傳へて炮を列く一舟小發し直小進み火急の攻れ  
 自余の兵船も競ひ進み攻寄る其形勢金鼓の響に鯨波天地  
 小震ひ是が為小泰山の山崩き海入押由も碎て地小沈むと疑  
 りるされども明軍も茲を大畏と矢石必私し怒を放ち大水小成て  
 防禦も成施世標藍廷珍王萬化の緒將兵士小下知し平推し押  
 寄く射もども突も物もせむと射る者成踏踰乗起息成も  
 是れ無二無三小攻之れ明兵遂小防禦叶くほど一度小吐と操る守  
 され鹿耳門成棄て敗走と施世標安々鹿耳門成攻取衆兵小向く  
 日兵我用の法を唯様をく々發する有敵小足成溜させむと  
 ひふ系く安平鎮成も攻破せしと下知しるおど藍廷珍王萬化は  
 く指揮し急げや者どもとて自ら真魁小進む大軍是れ小機を

得く勇進し攻迫着る形勢野一かんも疎かり

世標定計復安平鎮

茲小李勇杜君英と互小私の遺恨成含む大吏を志して江國  
 論が練を歩むと已小闘争小及かんと志する鹿耳門へ敵推寄り  
 として大の諒を馬成飛して安平鎮へ回リく多小敵もや鹿耳門  
 成攻破りて早此所へ攻迫付たりと上成下へと發動するやと李勇  
 芒然と々惆果豈計らん斯もぞ敵兵神速小攻きくんとは是我が  
 過ちかりとて始く後悔し急が射て出く戦んとすと江國論大制  
 して曰清軍今諸國の緒侯成集り大軍を多上鹿耳門の戦小勝  
 て其来銳當りがり身方小勢と心懸りたる兵を以て出く戦  
 必定敗とて只杜君英と和陸一力を併て戦ふあはんと勝



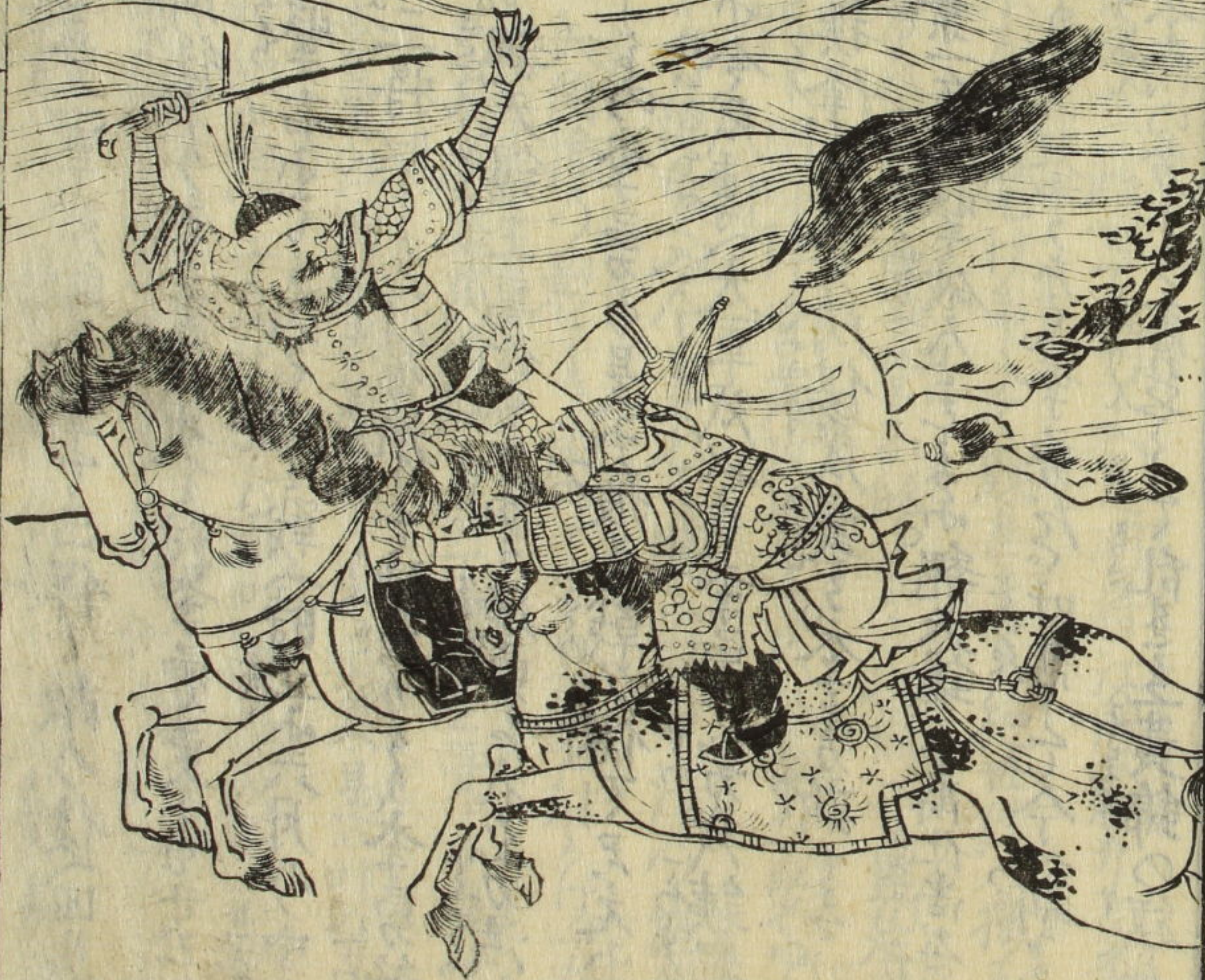
利成得<sup>え</sup>た<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>ば<sup>も</sup>更<sup>き</sup>に<sup>も</sup>君<sup>きみ</sup>英<sup>ひさ</sup>小<sup>こ</sup>助<sup>すけ</sup>力<sup>ちから</sup>成<sup>なり</sup>とも<sup>も</sup>救<sup>きう</sup>へ<sup>ば</sup>ら<sup>ず</sup>  
且<sup>かつ</sup>這<sup>こ</sup>所<sup>ところ</sup>を退<sup>ひ</sup>れ<sup>ば</sup>急<sup>いそ</sup>に<sup>も</sup>朱<sup>しゆ</sup>大<sup>だい</sup>君<sup>きん</sup>成<sup>なり</sup>結<sup>むす</sup>ぶ<sup>に</sup>針<sup>はり</sup>路<sup>ぢよ</sup>を向<sup>むか</sup>へ<sup>ば</sup>交<sup>ま</sup>戦<sup>せん</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>  
ん<sup>を</sup>叶<sup>かな</sup>へ<sup>ば</sup>李<sup>り</sup>勇<sup>ゆう</sup>曰<sup>い</sup>わ<sup>く</sup>我<sup>われ</sup>縦<sup>た</sup>に<sup>も</sup>敵<sup>てき</sup>軍<sup>ぐん</sup>小<sup>こ</sup>向<sup>むか</sup>へ<sup>ば</sup>戦<sup>せん</sup>死<sup>し</sup>とも<sup>も</sup>馬<sup>うま</sup>ぞ<sup>と</sup>杜<sup>と</sup>君<sup>きん</sup>  
美<sup>み</sup>匹<sup>ひつ</sup>夫<sup>ふ</sup>不<sup>ふ</sup>羊<sup>やう</sup>成<sup>なり</sup>東<sup>とう</sup>る<sup>に</sup>更<sup>さら</sup>成<sup>なり</sup>せん<sup>に</sup>況<sup>いは</sup>や<sup>も</sup>今<sup>いま</sup>敵<sup>てき</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>鹿<sup>しか</sup>耳<sup>みみ</sup>門<sup>かど</sup>を<sup>や</sup>破<sup>やぶ</sup>ら<sup>ば</sup>何<sup>なに</sup>の<sup>い</sup>ふ<sup>や</sup>  
面<sup>おもて</sup>目<sup>め</sup>あり<sup>き</sup>朱<sup>しゆ</sup>大<sup>だい</sup>君<sup>きん</sup>小<sup>こ</sup>見<sup>み</sup>分<sup>ぶん</sup>死<sup>し</sup>唯<sup>ただ</sup>一<sup>いつ</sup>戦<sup>せん</sup>して<sup>も</sup>敵<sup>てき</sup>成<sup>なり</sup>追<sup>お</sup>散<sup>さん</sup>し<sup>ば</sup>勢<sup>せい</sup>ひ<sup>も</sup>小<sup>こ</sup>集<sup>じふ</sup>し<sup>ば</sup>  
鹿<sup>しか</sup>耳<sup>みみ</sup>門<sup>かど</sup>を<sup>や</sup>奪<sup>うば</sup>へ<sup>ば</sup>更<sup>さら</sup>に<sup>も</sup>我<sup>われ</sup>程<sup>ほど</sup>敵<sup>てき</sup>を<sup>や</sup>討<sup>う</sup>つ<sup>に</sup>陣<sup>ちん</sup>没<sup>ぼつ</sup>す<sup>べ</sup>と<sup>も</sup>敦<sup>とん</sup>固<sup>こ</sup>  
陳<sup>ちん</sup>福<sup>ふく</sup>壽<sup>じゆ</sup>止<sup>と</sup>て<sup>も</sup>曰<sup>い</sup>わ<sup>く</sup>兵<sup>へい</sup>書<sup>しょ</sup>中<sup>ちゆう</sup>も<sup>も</sup>寡<sup>か</sup>衆<sup>しゆう</sup>敵<sup>てき</sup>せ<sup>ば</sup>ど<sup>も</sup>し<sup>ば</sup>今<sup>いま</sup>鹿<sup>しか</sup>耳<sup>みみ</sup>門<sup>かど</sup>敗<sup>ま</sup>れ<sup>ば</sup>  
氣<sup>き</sup>成<sup>なり</sup>屈<sup>くつ</sup>した<sup>る</sup>勢<sup>せい</sup>を<sup>や</sup>り<sup>て</sup>清<sup>せい</sup>軍<sup>ぐん</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>剛<sup>ごう</sup>く<sup>く</sup>壯<sup>さう</sup>なる<sup>に</sup>敵<sup>てき</sup>小<sup>こ</sup>當<sup>あ</sup>る<sup>に</sup>と<sup>も</sup>大<sup>だい</sup>小<sup>せう</sup>  
不<sup>ふ</sup>可<sup>か</sup>なり<sup>き</sup>江<sup>かう</sup>國<sup>こく</sup>綸<sup>りん</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>練<sup>れん</sup>言<sup>ごん</sup>小<sup>せう</sup>隨<sup>ずい</sup>ひ<sup>ひ</sup>敵<sup>てき</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>来<sup>らい</sup>鏡<sup>けい</sup>成<sup>なり</sup>池<sup>ち</sup>一<sup>いつ</sup>謀<sup>ぼう</sup>成<sup>なり</sup>定<sup>てい</sup>て<sup>も</sup>戦<sup>せん</sup>ひ<sup>て</sup>  
李<sup>り</sup>勇<sup>ゆう</sup>嘲<sup>あざわら</sup>笑<sup>わら</sup>て<sup>も</sup>曰<sup>い</sup>わ<sup>く</sup>是<sup>こゝ</sup>府<sup>ふ</sup>舊<sup>きう</sup>儒<sup>じゆ</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>論<sup>ろん</sup>なり<sup>き</sup>御<sup>ご</sup>辺<sup>へん</sup>亦<sup>また</sup>無<sup>む</sup>用<sup>よう</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>舌<sup>した</sup>成<sup>なり</sup>揺<sup>ゆ</sup>して<sup>も</sup>我<sup>われ</sup>  
軍<sup>ぐん</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>勇<sup>ゆう</sup>氣<sup>き</sup>成<sup>なり</sup>拊<sup>ふ</sup>く<sup>に</sup>更<sup>さら</sup>なり<sup>き</sup>敵<sup>てき</sup>何<sup>なに</sup>百<sup>ひやく</sup>萬<sup>まん</sup>あり<sup>き</sup>と<sup>も</sup>我<sup>われ</sup>が<sup>た</sup>眼<sup>がん</sup>より<sup>も</sup>り<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>

八<sup>はち</sup>蠅<sup>しやう</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>群<sup>ぐん</sup>り<sup>き</sup>如<sup>ごと</sup>く<sup>も</sup>豈<sup>あ</sup>怕<sup>おそ</sup>る<sup>に</sup>小<sup>せう</sup>足<sup>そく</sup>人<sup>じん</sup>や<sup>と</sup>て<sup>も</sup>敢<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>練<sup>れん</sup>を<sup>や</sup>更<sup>さら</sup>と<sup>も</sup>陳<sup>ちん</sup>福<sup>ふく</sup>壽<sup>じゆ</sup>せん<sup>ん</sup>と<sup>も</sup>  
く<sup>も</sup>退<sup>ひ</sup>れ<sup>ば</sup>鳴<sup>な</sup>呼<sup>こ</sup>向<sup>むか</sup>へ<sup>ば</sup>侵<sup>しん</sup>り<sup>も</sup>敵<sup>てき</sup>成<sup>なり</sup>悔<sup>くわい</sup>る<sup>に</sup>者<sup>もの</sup>敗<sup>ま</sup>ると<sup>も</sup>縋<sup>す</sup>り<sup>て</sup>長<sup>ちやう</sup>歎<sup>たん</sup>して<sup>も</sup>止<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>も</sup>何<sup>なに</sup>  
小<sup>せう</sup>敵<sup>てき</sup>も<sup>も</sup>間<sup>ま</sup>近<sup>ぢん</sup>く<sup>も</sup>押<sup>おし</sup>寄<sup>よ</sup>いと<sup>も</sup>報<sup>ほう</sup>む<sup>に</sup>李<sup>り</sup>勇<sup>ゆう</sup>些<sup>せ</sup>も<sup>も</sup>動<sup>うご</sup>か<sup>ず</sup>と<sup>も</sup>張<sup>ちやう</sup>看<sup>かん</sup>孫<sup>そん</sup>揆<sup>けい</sup>降<sup>かう</sup>を<sup>や</sup>  
左<sup>さ</sup>右<sup>う</sup>小<sup>せう</sup>備<sup>び</sup>黒<sup>くわく</sup>龍<sup>りゆう</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>駿<sup>しゆん</sup>足<sup>そく</sup>小<sup>せう</sup>步<sup>ふ</sup>騎<sup>き</sup>戦<sup>せん</sup>を<sup>や</sup>提<sup>てい</sup>げ<sup>に</sup>鉄<sup>てつ</sup>騎<sup>き</sup>二<sup>に</sup>千<sup>せん</sup>五<sup>ご</sup>百<sup>ひやく</sup>成<sup>なり</sup>卒<sup>そつ</sup>一<sup>いつ</sup>鎮<sup>ちん</sup>  
門<sup>かど</sup>を<sup>や</sup>開<sup>ひら</sup>き<sup>て</sup>軍<sup>ぐん</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>も</sup>斬<sup>きる</sup>て<sup>も</sup>其<sup>その</sup>勢<sup>せい</sup>ひ<sup>も</sup>疾<sup>しやく</sup>風<sup>ふう</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>小<sup>せう</sup>李<sup>り</sup>勇<sup>ゆう</sup>戦<sup>せん</sup>を<sup>や</sup>  
一<sup>いつ</sup>度<sup>たび</sup>奔<sup>ほん</sup>せ<sup>ば</sup>十<sup>じゆ</sup>將<sup>じやう</sup>翻<sup>はん</sup>り<sup>も</sup>落<sup>らく</sup>往<sup>わう</sup>来<sup>らい</sup>弛<sup>ち</sup>騁<sup>しゆう</sup>する<sup>に</sup>更<sup>さら</sup>人<sup>じん</sup>か<sup>た</sup>死<sup>し</sup>所<sup>ところ</sup>を<sup>や</sup>往<sup>わう</sup>か<sup>ず</sup>と<sup>も</sup>  
かれ<sup>ば</sup>其<sup>その</sup>猛<sup>もう</sup>勇<sup>ゆう</sup>小<sup>せう</sup>辟<sup>へき</sup>易<sup>い</sup>と<sup>も</sup>清<sup>せい</sup>將<sup>じやう</sup>守<sup>しゆ</sup>備<sup>び</sup>林<sup>りん</sup>亮<sup>りやう</sup>千<sup>せん</sup>總<sup>そう</sup>董<sup>どう</sup>方<sup>ほう</sup>小<sup>せう</sup>敵<sup>てき</sup>と<sup>も</sup>更<sup>さら</sup>  
能<sup>あた</sup>ら<sup>ず</sup>と<sup>も</sup>避<sup>さ</sup>け<sup>り</sup>用<sup>よう</sup>く<sup>も</sup>施<sup>せ</sup>世<sup>せ</sup>標<sup>ひょう</sup>遠<sup>えん</sup>小<sup>せう</sup>是<sup>こゝ</sup>成<sup>なり</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>も</sup>大<sup>だい</sup>小<sup>せう</sup>駿<sup>しゆん</sup>足<sup>そく</sup>馳<sup>ち</sup>噫<sup>い</sup>と<sup>も</sup>更<sup>さら</sup>  
一<sup>いつ</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>將<sup>じやう</sup>や<sup>も</sup>維<sup>い</sup>く<sup>に</sup>出<sup>で</sup>く<sup>に</sup>渠<sup>き</sup>を<sup>や</sup>討<sup>う</sup>つ<sup>に</sup>べ<sup>し</sup>と<sup>も</sup>更<sup>さら</sup>い<sup>ま</sup>す<sup>に</sup>終<sup>はつ</sup>つ<sup>と</sup>承<sup>しょう</sup>り<sup>ぬ</sup>と<sup>も</sup>  
一<sup>いつ</sup>員<sup>いん</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>大<sup>だい</sup>將<sup>じやう</sup>勢<sup>せい</sup>を<sup>や</sup>帥<sup>し</sup>く<sup>に</sup>殺<sup>ころ</sup>す<sup>に</sup>諸<sup>しよ</sup>人<sup>じん</sup>是<sup>こゝ</sup>成<sup>なり</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>も</sup>小<sup>せう</sup>將<sup>じやう</sup>中<sup>ちゆう</sup>の<sup>た</sup>め<sup>に</sup>家<sup>か</sup>雄<sup>ゆう</sup>魏<sup>ゑい</sup>天<sup>てん</sup>錫<sup>せき</sup>  
かり<sup>き</sup>施<sup>せ</sup>世<sup>せ</sup>標<sup>ひょう</sup>尚<sup>しやう</sup>過<sup>か</sup>ち<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>更<sup>さら</sup>を<sup>や</sup>怕<sup>おそ</sup>む<sup>に</sup>鞭<sup>むち</sup>を<sup>や</sup>揚<sup>あ</sup>げ<sup>て</sup>王<sup>わう</sup>萬<sup>まん</sup>化<sup>か</sup>を<sup>や</sup>指<sup>さ</sup>摩<sup>ま</sup>毛<sup>もう</sup>と<sup>も</sup>

忠義傳後編卷之九



リカウ  
李勇  
とらせ  
突戦  
まへんを  
清軍  
ふふむい  
令恐怖





王萬化早く其意を覺二軍戎帥と撃て出陣と敵の後回り。魏天錫  
 錫公前より蒐る。前後より李勇戎夾之討李勇。更にも世と兩將  
 を對峙として左の擊右のくひを搦と戦時正六月の中旬を  
 ら突暑前がくく。三將腦より汗を流して操たりたり。李勇絶せら  
 豪傑たりとくも。魏天錫王萬化もやある。魏天錫を刀法女  
 乱と斬結ゆと。李勇も是れ疲を戦ひ憊て見えぬ。絶  
 世鏢其間小緒將小令戎傳へ大軍戎以て李勇が勢戎鍊捕ら  
 く困せら張看獲降も數ヶ所傷戎蒙る。李勇斯てま叶ら  
 魏天錫王萬化戎棄一戎戎破んとくも。魏天錫王萬化尚付廻  
 突てく世心。奈何ともまたやうなく。李勇た吐息して今斯  
 一処。清の大軍東南の方より忽然として乱を黄錦の旗を翻

て一員の大將真魁小馬戎躍せて斬て入。是明將江國綸なり。李勇を  
 是れ力を得俱小敵を追麾け辛して敗れ走る。絶世鏢ハ搦を令く  
 爰小應む。智將をれ。李勇が營小破らざる。以前小藍廷珍と遣  
 く陳福壽戎追落し。明の陣營戎攻取らる。李勇公夢ゆ。世と  
 と。江國綸ホと馳て陣營へ入ると。遠く陣中清乃旌旗を  
 指し。擲の矢間擁の影より雨のくく。箭を射かけ。一人の大將  
 其声鐘のくく。冥賊盛戎脱腕を曲て縛を受よと呼ぶ。是  
 即ち藍廷珍なり。李勇。江國綸ホ芒然として惘果是六叶りと路  
 横切て弊まる。此時絶世鏢王萬化魏天錫の緒將。大軍小令して一  
 騎も餘さず討とくと。短兵急追討し。首戎斬。數をく。李勇  
 江國綸張看獲降。示且戦ひ且走り。衆軍深手戎負今ハ馬弱リ人



疲まきく進退益み充りたるふ。かりひゆとくと山乃後より晚風一面の繡  
 旗戎捲出して明乃張阿三が軍截り出追来る敵を逐散し李三男  
 亦戎救て走りたり。此時日已西山沈々るふ再び山の背より一條の煙  
 發りて空を凌ぎて天を冲る。絶世標王萬化魏天錫亦緒將是と見  
 て心大に疑ひ惑ひまき。遂に望む十里をり向中も日く煙氣天を衝  
 きまき。絶世標身方戎顧て曰。是必と敵小謀計あるべし。長追をせ  
 ざる。急小鐘戎鳴して軍戎班ち。士卒戎遣して潛小窺かむるふ。頓  
 て立皎り。只煙を上たるむりや。敵入由なりと報む。緒將いよく疑  
 ひ遂に師戎収り回りたり。是ハ朱貴が兼て教へたれり。謀め追兵と  
 疑へり。身方へ敗軍戎まきると相なりと。後ゆと走とあれり。絶世  
 標ハ且一日の中ハ鹿耳門安平鎮を恢復し五千余人を虜とす。首級

戎得る支數あまきれを衆軍大の勇と悦ぶ。絶世標まき。曾て藍廷珍  
 小命とて敵の陣營戎奪りしむる時。物到る者五人を擇む。生捕たる  
 明の士卒の衣服を脱ぎ。件乃五人の者み著せ。其幟兵符戎右五  
 人の者小持し。逃往勢小推し。遣りたる戎敵も身方もとるもの  
 かりり。是ハ明軍の機密戎内通さむ人の謀計をまき

一貴柳原伏地雷

明將李勇已が勇戎特で。江國論陳福壽が練言戎用ひむ。無謀の  
 師戎かくて散る小敗績し。其身をむり緒將皆傷を蒙り。卒に命  
 戎免まき。夜中ハ一崑身(まき)る。此河朱一貫ハ一崑身小屯りたるが  
 遙小敗軍戎まき。煙まき。諸ハ鹿耳門安平鎮の交戦小身方  
 利を失ひ。今此処小一奇計を設け支(防)をむり。敵兵



朱一貴 しゆいつき  
遠針 えんせん  
救危急 きうきふをすく





必と明日攻来るを慮り我よく是を破らんと其謀計を定む。時小陳福壽敗残の兵を帥と一崑身を逃来り。李勇と杜君英と各意を夾く。勇捕ふやび遂に敵を不意に伐を鹿耳門安平鎮兩所とも破せしむ。報と朱貴まどあらんを更の驚く顔色を。出る所へ李勇以下の諸將敗軍を帥と追々叩りきり罪を乞ふ。朱貴是を安撫し勝敗の兵家の常なり。何ぞ耻る小足人やと。酒宴を催して軍勞を慰む。ひ衆軍が安寝させく後暗に物押たる兵千余人を率し。身方あざり知せむ。兼て準備せし火薬を車十両積て。忍んで押出させ自ら地を掘見はるる。一崑身を去更十里をうり。敵軍の寄来るべし。路を五抑原との平野あり。是を天の佐と究竟の所と。数千の坎を掘せ。穴に火薬を置り。其上に柴を置て。又其上に土を覆ひ

てと回り多。其更の預り士卒等更何の謀なるを。彼絶世の標が謀計を受けて明の敗兵を。明の陣に居る五人の間者。潜り形勢を窺ひ。是は必定陥坎の謀計なり。五人中二人を急に清の陣に到り。如斯くの備ありと報と。絶世は。是は何程の更あらん。敵の謀を画餅なりと。次の日早天の鹿耳門安平鎮兩所の戦ひを生捕する五百余人の兵を召出し。酒食を以て慰み。絶て曰。汝も原罪なり。其賊朱貴を推逼し。止更を不得して其手小属せしむ。故に今悉く死を免し。放ち回せ。飯を朱貴に見し。利害を説いて志を改め。我を降し。渠尚頼む。如何にして一貴が首を斬り。再度き。礼を賞し。望み任さん。陣中必有所乃傷を負うる馬。或は老衰する馬。おれ多く出させ。傷者老人

長義傳後編卷之九



かゝれ<sup>のせ</sup>きて<sup>ゆ</sup>り<sup>久</sup>と<sup>生</sup>捕<sup>ま</sup>る<sup>者</sup>大<sup>の</sup>悦<sup>び</sup>深<sup>く</sup>思<sup>は</sup>れ<sup>し</sup>て<sup>出</sup>往<sup>り</sup>  
り<sup>。</sup>其次<sup>に</sup>絶<sup>て</sup>世<sup>の</sup>標<sup>を</sup>李<sup>祖</sup>陳<sup>允</sup>隆<sup>内</sup>人<sup>の</sup>命<sup>を</sup>。脚<sup>邊</sup>亦<sup>一</sup>萬<sup>の</sup>歩<sup>卒</sup>と  
帥<sup>と</sup>手<sup>毎</sup>小<sup>の</sup>萱<sup>草</sup>持<sup>せ</sup>先<sup>に</sup>放<sup>ち</sup>回<sup>せ</sup>者<sup>も</sup>乃<sup>に</sup>陷<sup>れ</sup>城<sup>を</sup>入<sup>る</sup>を<sup>守</sup>  
ま<sup>し</sup>。其上<sup>に</sup>若<sup>く</sup>萱<sup>草</sup>布<sup>埋</sup>て<sup>我</sup>軍<sup>の</sup>通<sup>る</sup>路<sup>を</sup>造<sup>り</sup>ゆ<sup>へ</sup>と<sup>指</sup>揮<sup>を</sup>  
兩<sup>將</sup>命<sup>に</sup>受<sup>て</sup>若<sup>く</sup>壯<sup>なる</sup>者<sup>一</sup>萬<sup>人</sup>を<sup>擇</sup>各<sup>々</sup>埋<sup>草</sup>持<sup>り</sup>出<sup>る</sup>往<sup>り</sup>  
世<sup>の</sup>標<sup>今</sup>心<sup>安</sup>と<sup>三</sup>軍<sup>を</sup>整<sup>へ</sup>徐<sup>々</sup>と<sup>一</sup>崑<sup>身</sup>と<sup>押</sup>出<sup>し</sup>去<sup>る</sup>程<sup>に</sup>李<sup>祖</sup>陳<sup>允</sup>  
允<sup>隆</sup>兵<sup>卒</sup>成<sup>属</sup>と<sup>道</sup>急<sup>に</sup>程<sup>に</sup>先<sup>に</sup>許<sup>し</sup>回<sup>れ</sup>明<sup>兵</sup>追<sup>付</sup>汝<sup>小</sup>  
何<sup>ぞ</sup>遲<sup>延</sup>と<sup>早</sup>く<sup>往</sup>我<sup>大</sup>軍<sup>の</sup>妨<sup>を</sup>と<sup>更</sup>か<sup>れ</sup>と<sup>声</sup>々<sup>と</sup>鳴<sup>る</sup>ハ  
明<sup>兵</sup>大<sup>の</sup>怖<sup>き</sup>足<sup>成</sup>逸<sup>れ</sup>五<sup>柳</sup>原<sup>に</sup>到<sup>る</sup>と<sup>比</sup>人<sup>馬</sup>も<sup>覆</sup>土<sup>の</sup>坎<sup>に</sup>  
足<sup>成</sup>踏<sup>込</sup>と<sup>忽</sup>ち<sup>列</sup>火<sup>を</sup>進<sup>り</sup>出<sup>る</sup>百<sup>千</sup>の<sup>雷</sup>地<sup>中</sup>より<sup>奮</sup>起<sup>と</sup>ま<sup>る</sup>  
か<sup>く</sup>鳴<sup>響</sup>れ<sup>黒</sup>烟<sup>遍</sup>滿<sup>り</sup>滿<sup>地</sup>裂<sup>破</sup>と<sup>大</sup>玉<sup>の</sup>飛<sup>出</sup>る<sup>更</sup>蝗<sup>の</sup>と<sup>く</sup>

さ<sup>ら</sup>の<sup>廣</sup>大<sup>な</sup>平<sup>野</sup>一<sup>面</sup>の<sup>火</sup>場<sup>と</sup>なり<sup>石</sup>成<sup>船</sup>人<sup>馬</sup>を<sup>裂</sup>破<sup>す</sup>る<sup>一</sup>  
明<sup>の</sup>五<sup>千</sup>人<sup>と</sup>清<sup>の</sup>一<sup>萬</sup>人<sup>俱</sup>小<sup>の</sup>片<sup>肉</sup>が<sup>同</sup>小<sup>の</sup>燒<sup>爛</sup>を<sup>微</sup>塵<sup>小</sup>成<sup>と</sup>矢<sup>々</sup>と<sup>ハ</sup>  
目<sup>も</sup>當<sup>ら</sup>れ<sup>ぬ</sup>形<sup>勢</sup>なり<sup>。</sup>絶<sup>て</sup>世<sup>の</sup>標<sup>は</sup>遙<sup>小</sup>此<sup>物</sup>音<sup>成</sup>は<sup>る</sup>大<sup>小</sup>孩<sup>き</sup>急<sup>に</sup>死<sup>に</sup>付<sup>る</sup>  
侯<sup>成</sup>出<sup>し</sup>て<sup>見</sup>せ<sup>し</sup>む<sup>る</sup>頃<sup>に</sup>地<sup>回</sup>り<sup>一</sup>五<sup>十</sup>成<sup>報</sup>と<sup>世</sup>標<sup>嗟</sup>歎<sup>し</sup>諸<sup>の</sup>敵<sup>を</sup>  
地<sup>雷</sup>成<sup>伏</sup>と<sup>我</sup>が<sup>間</sup>者<sup>陷</sup>井<sup>成</sup>殺<sup>と</sup>見<sup>過</sup>り<sup>て</sup>告<sup>り</sup>が<sup>故</sup>李<sup>祖</sup>陳<sup>隆</sup>  
を<sup>一</sup>萬<sup>の</sup>兵<sup>を</sup>失<sup>り</sup>是<sup>我</sup>が<sup>過</sup>なり<sup>。</sup>され<sup>ば</sup>同<sup>者</sup>告<sup>き</sup>と<sup>人</sup>を<sup>身</sup>方<sup>一</sup>人<sup>の</sup>残<sup>ら</sup>む<sup>と</sup>朱<sup>一</sup>貴<sup>が</sup>為<sup>小</sup>塵<sup>成</sup>と<sup>石</sup>成<sup>卷</sup>て<sup>と</sup>お<sup>れ</sup>  
々<sup>々</sup>と<sup>一</sup>崑<sup>身</sup>の<sup>陣</sup>小<sup>の</sup>五<sup>柳</sup>原<sup>の</sup>方<sup>小</sup>遠<sup>小</sup>天<sup>地</sup>震<sup>動</sup>と<sup>許</sup>火<sup>炮</sup>の<sup>音</sup>  
卿<sup>音</sup>成<sup>々</sup>と<sup>中</sup>須<sup>驚</sup>敵<sup>兵</sup>寄<sup>き</sup>と<sup>圓</sup>と<sup>朱</sup>一<sup>貴</sup>陣<sup>中</sup>へ<sup>觸</sup>  
觸<sup>て</sup>曰<sup>衆</sup>兵<sup>騒</sup>と<sup>更</sup>か<sup>れ</sup>是<sup>我</sup>が<sup>奇</sup>針<sup>と</sup>手<sup>成</sup>動<sup>と</sup>と<sup>敵</sup>と<sup>拉</sup>  
た<sup>ら</sup>り<sup>と</sup>曰<sup>せ</sup>と<sup>陣</sup>中<sup>漸</sup>々<sup>小</sup>鎮<sup>り</sup>と<sup>其</sup>後<sup>大</sup>勢<sup>の</sup>鎮<sup>り</sup>と

忠義傳卷之八



頃付侯然出しく見せしむるふ案のどく数千の人馬焦爛く五柳原  
小元満たりされとも遥か金鼓の音はるまで大軍今も寄来る勢ひ  
かれを急死地回りて斯と報む。朱一貫さう守禦の備をせよとて緒  
將を配當して今や寄る待居たり

藍廷珍破一崑身

干時六月十七日午の剋清の大軍野小満山の漫りて一崑身押寄  
喊然内と揚る中めも藍廷珍陣頭小馬成系出り大音小算賊等  
く聞付平野小地雷伏て我が軍成塵小せんと謀きども我が提  
督の明智早く是を察し却る一万余人の生捕を放ち候して彼地  
雷成殺けくも平野小りては我が手成以てゆる兵を焼くも斯小兒  
成欺ぐるとは拙れ謀針をわくと更あまきと二月小内とこもひ勢ひ小

のら一挙小踏破んと先成争ひ攻上る明軍も櫓の上より大石大木を  
投うけ矢間の蔭より雨の降りて矢成射出れむさし勇も清  
兵も若干討せ攻懼へどもんえ小多る李守勇敵の漂成か々撃て出  
んと聞たさ成朱一貫制して曰敵乃大将よく兵成用の機要小通さる  
しん今軍立尋常か々殊小今勝誇て英氣壮かりとて  
出く一度追退くとも身方も多く兵成拚死か人不如力成獨りて  
防禦し其気勞も勇撓成待り追散さんふくも愈緊く守り防  
たれも清軍も其急小破りか死をえ洋と攻口成強て遠攻小  
し其日も暮れれ兵を班して本陣へ回り緒將絶世標小見此城如  
何して攻落とせんと議も世標白前小遣り間者小豫め謀を云合  
みたれを遠くを敵成追落とせし緒君患る更勿とて女小思

史記傳編年表

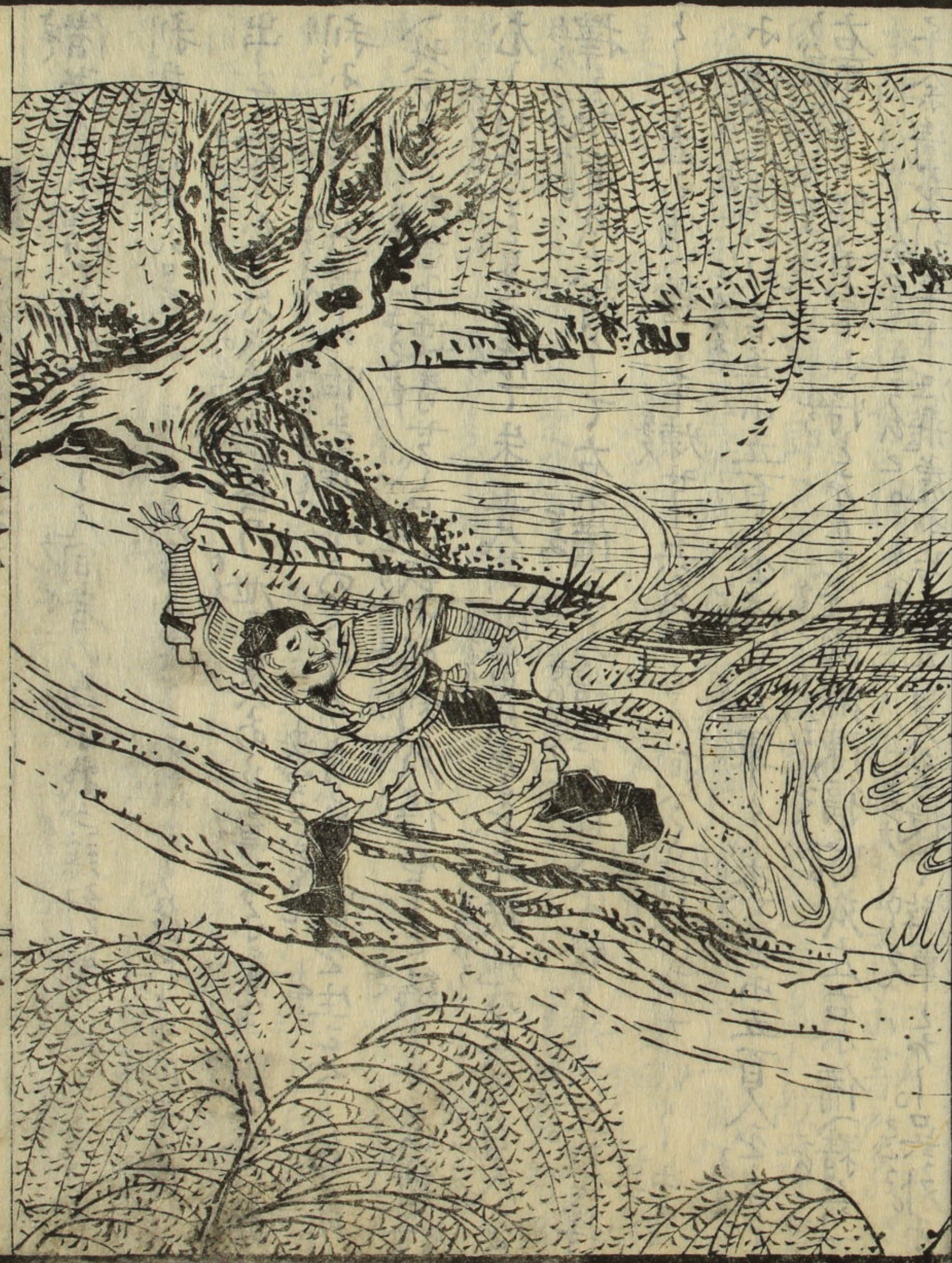


慮まる体なく酒飲んで笑ひ樂まされ。緒將さる信ぜむ疑ひ危  
 こながら其夜歩臥て軍旁休めり。斯て短夜早く明しりるハ  
 清軍まゝ敵營小押寄滅成發て攻まらふ。明兵も鉄炮放し箭  
 成射け。茲成大更と防戦ひ多ふ。忽ち明の陣營の後より火發り  
 黒煙天を曇せ烈しく燃上る。明軍仰天。是ハ如何我陣小裡斬  
 あるぞと。遠小城中上成下へ騒動も。絶世標ハ敵營小火の發る成見  
 ず。須波此弊小まどて攻破よと。三軍小下知成傳射も突も不顧  
 鯨波山野を動して一毎小攻進ませ。遂小城門成攻破り。亂入明將死  
 力成竭して此所小支へ彼所小戦ひ。命限小防げも。亂まする勢乃  
 癡くして。七年移々と亂し騒だく。遂小大崩となり。我先小逃走る。小  
 朱一貴も力成乏む。以緒將と俱小七崑身成さして。路行きの清軍

中師ハ勝たも。士卒若干討まられ。明軍の勇壯慢りが。一とて  
 強ても追ま。火成鎮て。一崑身の塞成乘取勝軍成。統將卒の功を賞  
 朱一貴大破清兵

去程小朱一貴ハ七崑身小陣成より深く思惟ま。五柳原の地雷  
 成敵小覺ら。且一崑身の塞成焼ま。成以て。考ま。決して我  
 軍中。小内應ま。者ある。さる。む。敵の間者。結ま。居て。機密成  
 泄し。火災を發せ。な。も。と。軍中。成。微細。小。點。檢。せ。む。り。果  
 して。三人の間者。成。捉。得。る。朱一貴。大。小。怒。り。兩。度。成。敗。軍。ま。這  
 奴。が。所。為。かり。と。て。曳。出。して。寸。小。斬。刻。せ。る。此。時。杜。君。美。ハ。清。の。大。軍  
 臺。地。向。ふ。と。せ。る。急。死。汰。水。營。より。弛。放。り。身。方。の。勢。小。加。り。る。朱。一  
 貴。限。り。なく。喜。び。本。事。勇。と。並。座。せ。り。て。利。害。成。銳。遂。小。和。睦。せ。り。り





忠義傳後編卷之九

火坑謀  
針大  
燒清  
兵



諸將小謂て曰何そとく人向者の為小我が謀計敵へ漏雨度なく  
 利成失ん六は是余う号令成蜜小せざるの罪なり然れども向者を  
 出して然一なきハ以後搦奮乃泄る更公あり量る敵軍敷度乃勝  
 利不心侵王我軍の怕を疾んふのみあり自益言心慢を生じべし其所  
 此方より大急小逆寄せし只一戦小勝利成得魚一と繕一とる小諸將  
 尤も日意と見小依て朱賈其配當成かを先鉄炮の兵五百人を  
 擇之張着成大将とて右小備弓の精兵五百人を勝り張河三成大将  
 とて左小備(鎗)小千煉せし兵成五百人揃へて獲澤成大将とて中央  
 小備(其後)小杜君英小五百人を添て左軍とて李勇小五百人をとて  
 右軍とて船中軍小將となりて江國綸陳福壽成左右小備(精兵一  
 千余騎)を引率一汪飛虎小歩兵五百人を授け遊軍とて吳外小

本陣成守らせ隊伍一舟小備より多き大明帝令と大字小書たふ紅  
 の大旗を直先小進め即日一崑身を押寄る朱一貫遙小敵の陣營  
 成望め小前ハ一面小疊楯成衝へて其陰小射人を隠し一備の大将  
 是成守り士卒皆具足を脱とて湧波といふを討て出づ形勢少く用  
 心緊く備り朱一貫是成又々嗟嘆とて曰是必くど清朝して智略  
 勝き一大将の指揮か多し此隊(尋常)小あまるとして先金鼓をほし  
 喊を上り攻罵る勢ハをかりしれども敵軍敢て強くと鎮り及て人  
 小出る者なり是小因り張着成塵を擧げて菟きと下知しれハ張着  
 間近く推寄一舟小鉄炮をもちけり多しと忽ち疊楯を撃倒し多  
 干時其陰小備へて清兵鏃を揃へて矢を射る更雨より敵  
 張着勢是小射多しとされ支度路小成て礼る所を清乃大将守備



林亮五百騎の勢成帥と透間もなず擊つる張着が勢益強たきて  
散々小敗まじり是れ成入る獲降の一手の勢横合より鎗成揃へて突て蒐  
り多ふを林亮と突崩され支へてんえんを張着取て返し差  
夾て擊つる林亮の勢遂にまじり射を這々小敗退く此時清の  
陣より紅の旗たひき出く呂瑞麟一手の勢成率一方天戦を率  
て喚て蒐る是れ成入て明の陣より李勇五百騎を帥て馬成起して  
擊つる李勇と呂瑞麟合せ連小戦二十余合呂瑞麟力疲  
と叶いどて逃まじり成李勇透まじり追蒐る李勇がふり馬黒竜  
と呼ぶ駿足なれ疾風のごとく近て追着ぬ李勇猿臂成伸て呂瑞  
麟の鎧の上帯成掴ま地上の唾ど投はけ矛成伸と刺んとまじり成  
清の大將獲孟良魏大猷等呂瑞麟を射せと突出してまじり

擊つる是れ成入て呂瑞麟の腰骨成まじり折れぬ歩卒小助  
らまじり命成助りまじり李勇大い怒り獲孟良魏大猷二人小當  
り二十余合戦ふとんえん魏大猷が鎗を左手小扱獲孟良を刺  
て落し魏大猷其猛勇小恐怖し叶いと成かりひえん鎗成捨て逃ま  
る李勇是れ成入とまじり小流箭一つまじり肩尖へ發止とまじり鎧  
の札や強りまじり勢や弱りまじり敢て裏成をまじりり斬て兩陣入  
るこれ黒烟をまじり接戦し清の大將酈耀祖魏天錫朱文謝希  
賢范國斗等大軍成帥と潮の湧ごとく公方より掩ひ来る中ふも  
魏天錫公府中の逸勇なれ奮成して鋼刀成拵し斬て入人馬の  
まじり斬てやれ張着獲降が勢散々小敗まじり殺々とまじり  
亂れまじり魏天錫勢ひ小棄して是れ成追已小中軍へ衝入るとまじり所



小杜君英一軍が帥を擧げて出是は速に留り魏天錫小渡し合互に  
勇威を顯し戦ふ者八十余合魏天錫猛虎の怒をかせむ杜君英飛  
龍の勢ひを張る更し雄を分る所小清の大將范國斗一手の勢  
成帥を杜君英軍が目付け真一文字小蒐来る成明の陣より張阿  
三か一軍横合より出く鏃を揃へ一音小切て放まふと范國斗が勢忽ち  
象戲を仕立てて矢庭に百余人射て落さる張阿三猶も屬く差結引  
結射させぬ范國斗の勢射ちまされて敢て進み得む此間小魏天  
錫杜君英八群の勢小押隔らむ物別して息を休めたる此時より朱  
文謝希賢が軍掩殺しきりたるを清軍是れ小穢を得て送浪の  
崖成崩とて叫び喚叫び中軍に攻るる成汪飛虎が一軍擧げて出四角八  
方へ蒐散して更旋風乃砂を転とて如くなれむ清軍又あけてぞ及

小多李勇杜君英と此れ戦て彼小出彼所小働死て之此所小戦ひ  
敵軍の中成縦横して人を斬る者多し清軍八月小余る  
大軍をばまともせど小勢の明軍成追廻し一騎も余さずと探する  
朱一貴遙小是成らん時をよれと江國綸陳福壽成左右小備(鶯  
地暗小斬て入朱一貴躬劍成振て清將十三騎を斬て落すと其勢ひ恰  
も香象の海小入り波濤を閉ざりて清の大軍一度小乱ま人  
馬互に踏殺し小押しされ予成捨盛成落して散る小敗まると朱一貴  
十分小少勝前面成恥とらん小監廷珍王萬化が旗翻りきり成見  
て敵小新兵加はると長追ふせとて鐘成鳴り勢成班り敵の追来  
人更成量り李勇汪飛虎成左右の山隘小伏杜君英を殿とて徐々  
とと崑身引て往藍庭珍王萬化已小追討せんと志をれども明軍の





只義傳後七卷第一

五



とんえき  
杜君英  
くうゆうまわい  
驍勇大  
てんえきをやる  
敗敵軍

只義傳後七卷第一

五



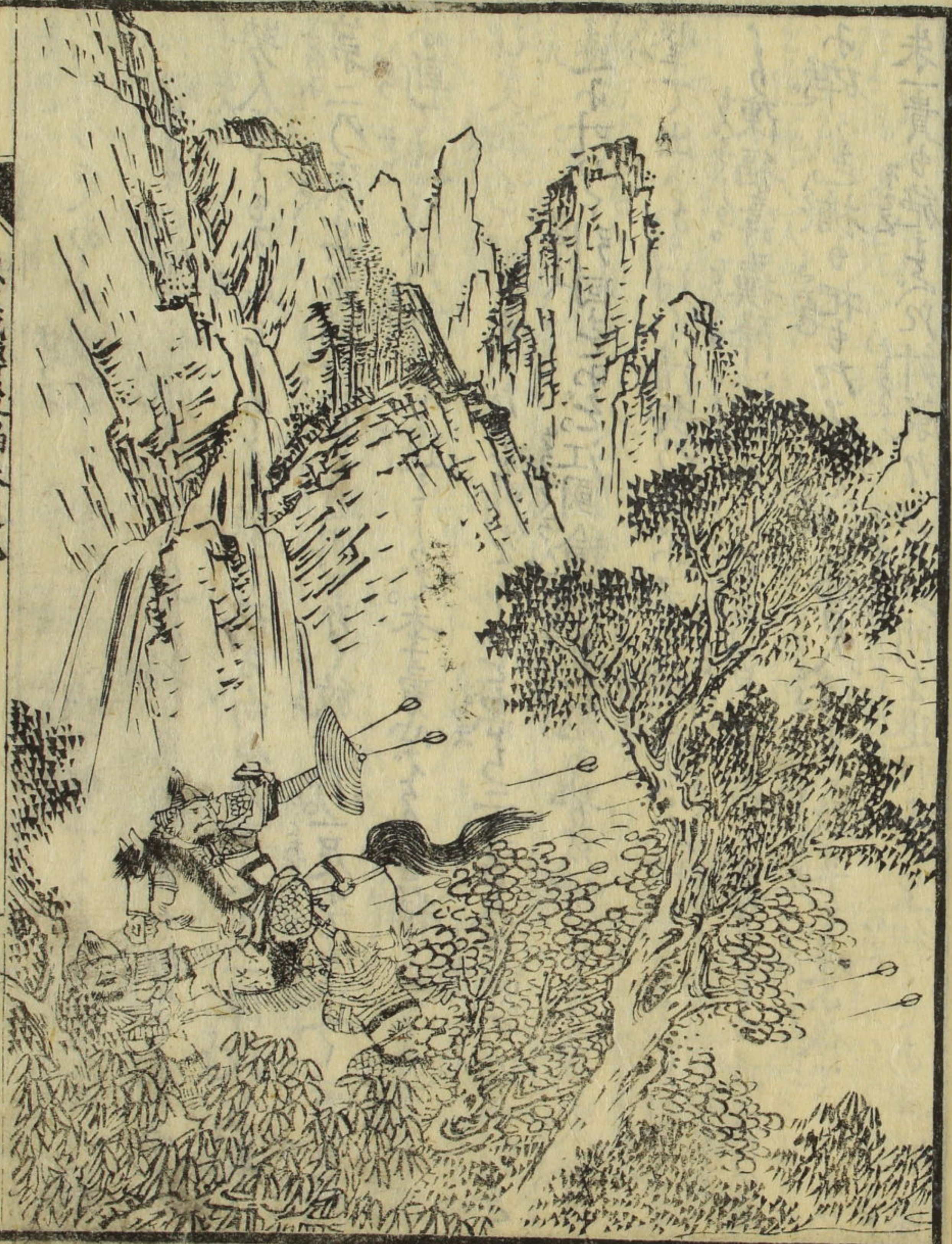
隊伍紀律有以乃全。其勝利を得たるを察し遂に追で止るる

世標叠陣破明兵

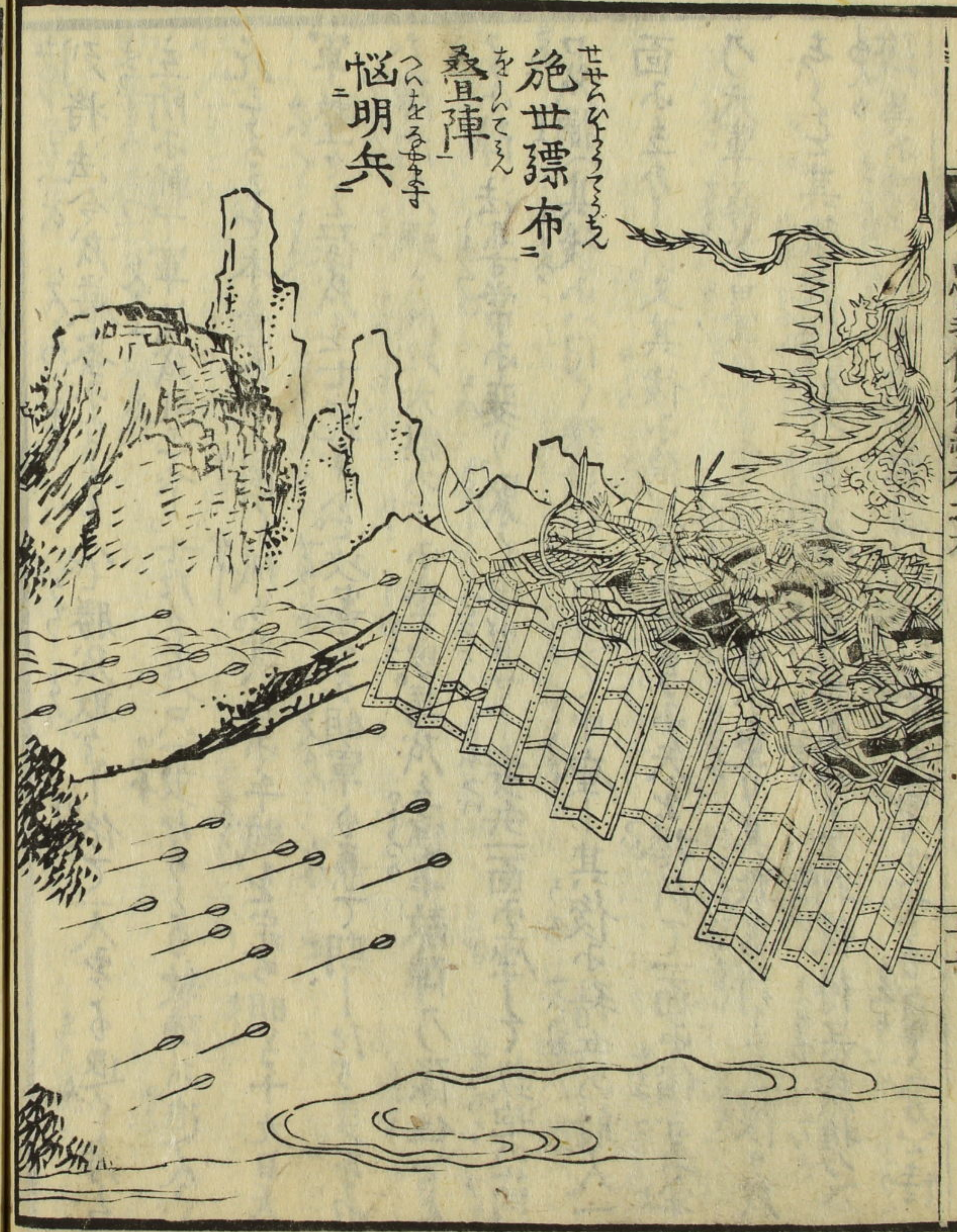
一崑身の交戦小清兵多く兵を拵れ多きを提督絶世標不悦して緒  
將我集會一議して曰明賊より兵道不達せし上部下小李勇杜君英  
がくは饒將有る其鋭とるごとく我が軍は却て鈍し今日の戦ひ敵は小  
勢身方大軍をうぶ敗をうぶるを安んずるは是他乃議なり緒將前々  
の勝利は心驕り敵は侮るより敗軍せり大敵は怖む小敵は侮る  
されと三才の嬰女見ゆとれる兵道の戒りなり自今以後心我責て敵を  
狂んせと賊軍の根を断棄は拵く上帝王下八萬民乃心我安んぶる社  
以要を我曾て叠陣の法を學べり明日此陣法を以て敵に當らん  
賊軍勇なりとの此陣小臨を彩のぞく碎ん更何ぞ難く人我をいふ

列將法令を嚴密守るるを勝取たり依て一人も退く者も  
立所小斬て軍法を糾とす士たる者は只二歩なりとも敵陣に進んば  
死するこそ本意なれと固く緘り其夜小手賊を定め明十九日大  
軍整々と隊を立七崑身を以て攻寄る明軍も兼て期したる更なれ  
を陣門を颯と開れ大旗の下小李勇馬を遙に敵陣乃隊伍と見  
ふ小陣法尋常小変り緊く甲冑せし歩兵二百小座して鉄炮の筒  
口を揃へ其後小ははく鉄騎奴を連て中座し其後小籍兵の射人一  
面小をわび又其後小騎馬の將士弓小矢を搭ひて一面小備へ其餘  
乃大軍叠置を置るるして百重千重小重り其數幾許とて限り成  
あつと其後小緒列乃豪傑甲冑を爽れして列位得るを推乃へ  
駿馬小跨て扣り李勇は何乃陣法ともなれば自ら勇と恃





忠義傳行録卷之九



世をひらきつゝも  
絶世鏢布  
をいへる  
疊陣  
悩明兵

忠義傳行録卷之九

十七



何程の更あつて人蹴散して退んて吐と喚て撃てうら。清軍一舌の鼓  
 成響音とて響く。鉄炮放ち矢放射る事雨よりも般素く李勇が  
 勢人馬とも射とくやうま敢て面成向るれやうなり。一陣放ち畢バ  
 第二の隊其前を替り。透間もなく放ちけ一足出ても退く者之所  
 小斬て捨隊成乱さると進まらぬ。李勇心なると猛とつても一歩も進  
 む更戦つと憫もてくかを所をまると忽ち三三百人矢炮の為小討ま  
 遂小叶が引回とわど。江國綸張着二彪の勢成帥と李勇小入替り  
 撃て出まらぬ。曰く清兵の為小多く射落され叶とて引退く。是  
 り陳福壽換降江飛虎杜君英替る。出く支のまるとも。互置陣の為  
 小碎るも楯も把もたやうと社數百人討せ敗走と。是も依てさうもの  
 朱一貴も絶まると針策なり。且此所を退けよと。程とをある。徳と果

たる明兵我先ゆと北走る。清の緒將是成及く。須波敵敗走と。是  
 を追蒐て一人も残さずと討取と下知成傳(曹成)揃く斬て廻らぬと  
 明兵の討る者麻を乱せらうと。荆成布より般素。李勇。杜君英。ハ  
 身方成安く退せんと。二騎踏止。追来る敵成斬て落と。更敷を  
 あつと。成まとも續く身方成。敵目余る大軍かれ。遂小叶と  
 俱小引退く。今日の戦小。明軍大半討まぬ。清將ハ猶根を断棄と枯  
 さんと短兵急小追蒐。已小海辺(追結)多小。忽ちとて岸陰より大  
 明帝令の旗成指たる船百余艘漕着彼神通道人。飄然と船先  
 小頭多。明の将卒成招れ乗船と。漕夫多小と。清の緒將も  
 是成追つて針なく空く沖を睨と。遂小海濱小陣を構へたり

國姓命忠義傳附録臺灣紀卷之四畢



繪本國姓爺忠義傳後編卷之十 附錄臺灣紀卷之五

目錄

世驃逐敵浮海 せひょうそくてつうかい

神通道人明兵を救図 しんつうだうじんめいへいをきうず

廷珍大戰獲厝申 ていしんたいせんかくわくせうしん

儒生世驃小見と難易を鏡図 にうせいせひょうせうけんじとがたうをきやうず

世驃討拆朗水軍 同図 せひょうてうていれうすいぐん どうず

朱一貴謀討却敵營 しゆいつきぎまうてうてつてつてきやう

廷珍入臺府安民 ていしんとうたいふにんあんじん

朱一貴一討を遺く山林小隠る図 しゆいつきぎいつてうをいれくさんりんせういんるず

大寬地震疫癘流行 たいくわんちゆんちゆんえきれいりゆうこう

忠義傳後編卷之九



朱一貫救時時... 世標追敵浮海... 目錄

繪本國姓爺忠義傳後編卷之十

絶世標追敵浮海

明軍ハ世標の法小碎多己小死の場小臨... 道人の救ひの船を得て一生成得瀬口小水陣を張...



人漕こがさるる波瀾せらんを凌あはて沖路おき遙とほまり往ゆ船影ふねかげをえむたりたり人  
 奇異きいのありひをかくて眺み居ゐる。江國かうこく論ろん朱賈しゆきやの問とく曰い彼道人ひだうじん如何いかある  
 神仙しんせんを我徒われたの危急きききを救すくひ。今又いままた風かぜを呼よんで自みづから去さる。朱賈しゆきや曰い余未  
 列位れつゐの道人だうじんの未由みゆ成銳せいざいと魚渚いささ將しやうの惑まどを晴はらん為なり。原  
 彼道人ひだうじんの古ふるの飛虹ひこう將軍しやうじん郵ゆう芝龍ししりゆうが嗣子しゆし延平えんぺい王國わうこく姓せい命めいなり。在世せいせいの  
 時とき明めいの臣しんの節せつ成せい改かいむ。度々たたく清せいの強かうを碎くだし。更さらハ碑いしの傳でんて大だい擊げき重じゆうの  
 是こゝ成せいままり。並ならふ小せう天てん柱ちゆう嶺りやうの登のぼり。劉伯温りうはくゐんが遺書いしよ長なが得えて遂つひに解とけて  
 仙せんと名なり。平へい日にち天下てんかの名山めいざん小飛せうひ遊ゆうせり。就中しゆうちゆう基地きちの天柱てんちゆう嶺りやうハ往ゆ日にち仙書せんしよ成せい得  
 地ちと云いふ。山水さんすいの佳絶けつせつなる愛あいして屢しばしば彼山かみ在あり。或時あるときハ城じやう市しの出て  
 民たみ小符水せうふすいを絶たし。其疾病しやくびやうを除のぞく。萬人まんにん一人ひとりの愈なる。茲こゝに以もつて世  
 人ひと神かみの如ごとく推崇ちゆうせんで神通道人しんとうだうじんと稱なづふ。余あも一度いちど道人だうじんの見て其神かみ仙せんと

知深ちかひく崇敬そんけいせり。小道人せうだうじん早く余あり大志だいし成せい懷わいを察さつし。兵道へいどうの秘訣ひけつを悉しつく  
 授おとりて其身かみの本末ほんまつを語かたる。先まづ其基地きちの人民たみにんの某たれの月某つきたれの日ひ大明帝だいめい令しん  
 の紙旗ししきを立たて香かうを焚たぐ。災さい害がいを免まぬる。教かへ余ある軍ぐん成せい扶たすけ。由よし道人だうじんの計けい  
 かり。其後そのちハ久ながく見みる更さらを得える。余あも今いま余ある軍ぐんの必死ひつしを救すくひ且かつ錦囊きんなん  
 の謀まうを賜たまふ。豈いかで頼たのむ。と緒いと先まづ江國かうこく論ろんをなす。緒いと將しやう將軍しやうじん軍ぐんを以もつて  
 大だい小せう喜きひ遙とほ沖おきの方かた成せい拜ひらす。時とき小清せうせいの提督ていとく絶たて世せい標ひょうハ海岸かうがんに  
 屯とんして猶なほ敵てきの根ね成せい断たんと次つぎの日物かひもの押おす。士し成せい船ふね小乘せうじやう緒いと方かた分ぶんちり  
 明軍めいぐんの行方ゆきかた成せい窺のぞむ。余あも一人ひとり漕こ回わいりて敵てきハ瀬口せこう小據せよ水すいの游ゆうる陣ちんを  
 張ちやういと報あむ。絶たて世せい標ひょう是こゝを以もつて急いそに近ちかく港みなとを乃すなはち船ふねを集あつめ。大軍だいぐんと乘のり  
 して瀬せ口こう押お寄よ人と欲ほむ。其形勢かひせい舳艫しゆくか江かう小横せうかうり旌旗せいし天てんを掩おほふ。未  
 賈きや是こゝを凡たゞく手てを拍たて。清せい乃すなはち大将だいじやうと陸地りくち乃すなはち戦法せんぽうを志しふと



神道  
人救  
明  
兵





謀計已お成まり。必定明日寄きまらば。我敵軍必塵おせんとして先張  
 者。換降お郷兵二十戎とて。換厝申お化させ。敵も不意お後へ出  
 ん時の備とし。又兼て多くの火笠前を作致おたさる。今此所おく用  
 人。密お手配を定め。敵寄来を瀬只拘お入岸頭より火笠前を射  
 け悉く焼沈んと備をたし。寄る我遅しと待おる。清の陣おち  
 斯とも志しと軍議區々なり。所お忽ち一人の儒生小舟お掉せし  
 漕来りて提督絶世標お見んと陣門を守る兵怪とたが。斯と  
 報し。多きを絶世標命して迎へて。其人眉目清秀おして儀表  
 頗る俗を離れし。絶世標お曰。そも先生何吏の教有て。我陣お来  
 る。儒生答て曰。此兵革發さる以前お神通道人といふ者あつ。竹付水

を与へく民の疾病を命し。諸人を飯伏させ。後示して曰。五月お到  
 りて大なる禍災有。帝令の二字お旗お記し。門お香と  
 焼祭る者。命全と命。並せざる者。八災害三族おおと。茲  
 小於。緒民其辞お順され。我か二門の道人か。言お怪。是必を  
 妖術偽計を。敢て帝令の明旗を捕。故お明賊。是と怒  
 て乱れ起。砌我か之族を殺し。其難を避。是も  
 已お一類を絶。恨を骨髄お徹せり。され我天下萬民の為。小  
 君侯。一大吏。告を。人。為。小。嚴。威。を。犯。し。今。見。し。れ。を。御。勢  
 敵を追て水お浮。小。察。し。明。日。瀬。只。推。寄。お。入。為。小。あ。ら。む。と。や  
 世。標。お。白。然。り。儒。生。お。白。是。大。小。不。可。な。り。抑。此。瀬。只。臺。灣。府。小。往。の  
 水。口。お。て。甚。く。深。く。水。勢。渦。卷。激。く。船。一。度。入。時。急。お。出。る。吏。難。



今敵ハ地利を得。將軍の兵ハ死地ハ入り。且賊將朱賈。智謀深ク。機  
變究リテ。今まで水ハ游ハ彼ガ謀計ナリ。其故奈何トナレバ。將軍  
の兵明日瀬口寄ル敵軍皆岸上リ岸頭より多クの大軍前を放  
て船を焼カ。將軍何を以て防ダ。必死必定緒軍周障。乱るべ  
其時敵後ハ回リて水口ヲ截断カ。大軍出ル路ありして。惜ひ下堂々  
と豪傑名侯。一朝ハ焼死シて尸を鯨鯢の腹ハ屠キ。血ハ  
并呑溜々ト流レ。絶世標定テ心揺々ト酔る。全身ハ汗を  
流シ。一度ハ發テ。一度ハ怕シ。謝シテ曰。實ハ先生の教ハあり。正ハ我が  
大軍一貫ガ為ハ塵ホカ。呼危カ。歎息。心中ハ猶此儒  
生不意ハ来リ。若是ハ由朱賈ガ謀ナリ。今ハ狐疑シテ決セ。儒生  
早く絶世標ガ疑念の気色ある。公ハ笑テ曰。此度の兵革ハ朱賈杜君

英李勇。以下十余人の奸賊乱をカ。その百姓皆朝廷の赤子ナレ。天  
兵の至ル。公ハ恰モ枯る苗の雨を待テ。將軍胡ト懲。美而吹。盡  
吏をカ。吾妻子ガ引キ。人質トせん。疑ハを夾。大吏ト  
癡。吏更勿キ。理を尽シ。練カ。絶世標初テ悟リ。自。儒生  
の手ハ。上座ハ。拜テ曰。君今日先生の来ル。非人。明日我等衆  
人敵の謀計ハ。陷る。大國郡を失ク。天下の大患ハ。釀。一  
是。高天清朝を保護。願ハ高姓を。儒生ハ只  
名。者。姓名。不告。絶世標益々其高風を感。當座の  
賞。金銀若干。儒夫。一錢。不受。吾ガ志ハ。萬  
民の金。沈。欲。焉。苟。恩賞を貪。為。来  
リ。袖。掃。歸。其夜。即。妻子。来。賃。ナリ



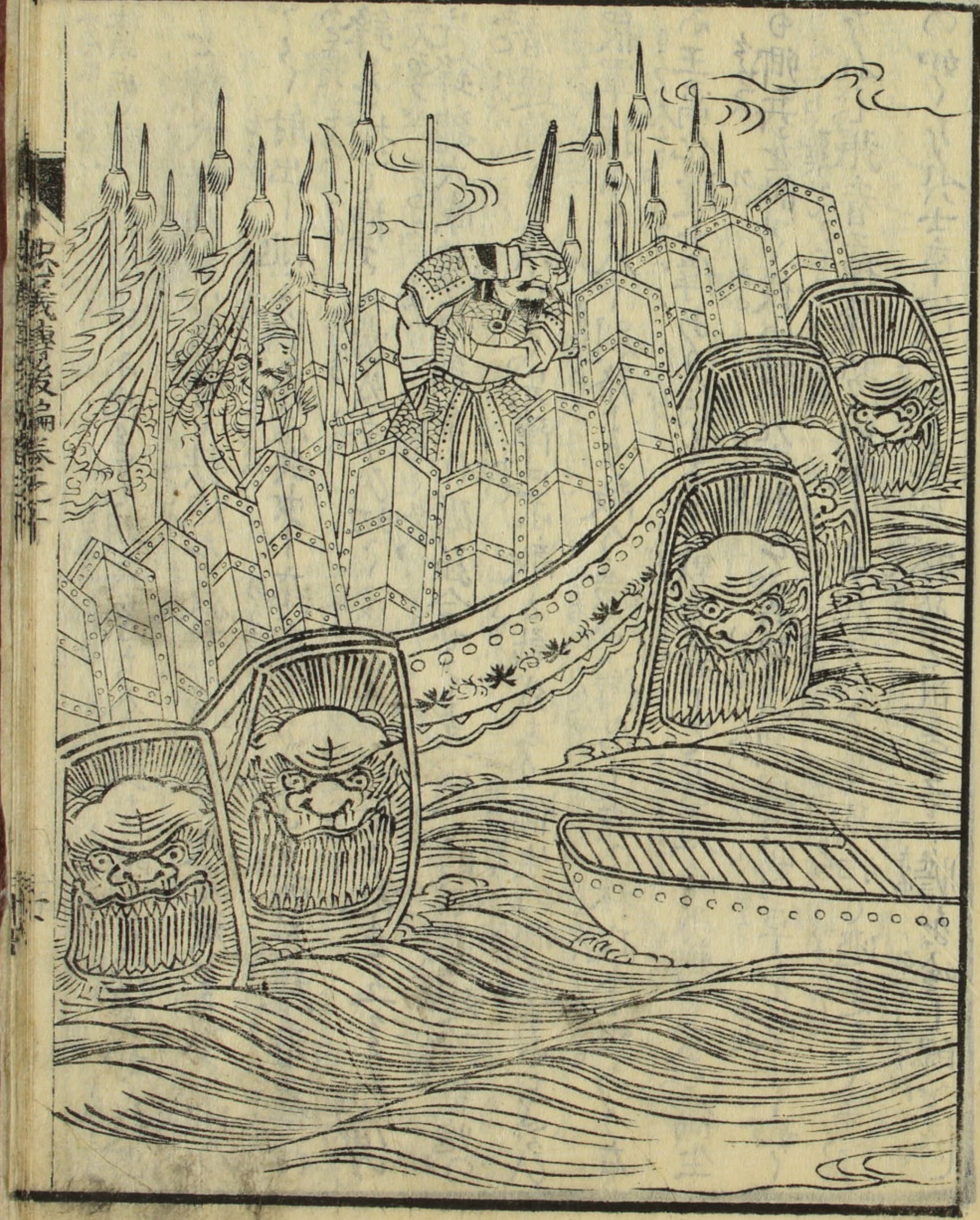
世琛喜曰。今如何なる計略を以て。賊軍を敗るべし。願くは我を  
 垂よ。儒夫笑て曰。將軍公世の英方何ぞ。小生が及ひぬ。されども小生を見よ。  
 先總軍敵陣を攻むる体を。一軍を残して。支へさせ。却て大軍  
 永より陸の上り。敵の後に出む。我其時。卿兵を引來りて。卿道を  
 かみぬ。水の手の一軍。敵をたぶれ出。て伐む。然るも朱賈。謀計  
 齟齬て。前後の途。失ひ。悉く擒とかり。人不知。此計如何。絶世  
 琛。大い喜び。是より。我意を合り。て其準備を。なせ。儒夫を  
 約を固めて。妻子を渡し。出さる。

廷珍大戦獲厝申

斯て絶世琛。儒夫が計。後ひ其夜。守備林亮。魏大猷。洪平。千總  
 董芳等。小精兵一千。戎今ら。与へ。水港を探せ。又監廷珍を呼ぶ。曰

足下北路の兵を領して。西港より進む。と令を。監廷珍。領掌し。其  
 夜。杉板頭の船二百艘。取乘。魏天錫。金作。彌葉。應龍。武。奉。倪。洪  
 範。小精兵一千。戎。与へ。光鋒。林政。李祖。小精兵一千。戎。与へ。左  
 翼。王萬化。邊士。偉。小精兵を。与へ。右翼。劉永貴。小精兵  
 五百。戎。与へ。左旗。范國斗。范宗。勛。小精兵五百。戎。与へ。右旗  
 呂瑞麟。種。明。良。小壯兵。四百。戎。与へ。後陣。軍。西港。仔  
 官寮。小進。水。口。陸。押上。約。違。儒生。多。の。卿兵。を  
 引來り。來り。應。藍。廷。珍。大。喜。び。是。戎。教。導。路。を。急。せ。  
 程。積。厝。申。小。近。署。前。面。小。望。を。數。千。の。敵。軍。獲。厝。申  
 小。屯。往。來。其。休。曾。隊。伍。を。察。と。る。小。皆。望。海。乃。土。民。あ。り  
 んと。伴。勢。分。て。西。港。の。別。路。より。進。む。此。時。先。鋒。魏。大。猷。金。作。彌。葉。





舟  
 龍  
 頭  
 舟  
 龍  
 頭



儒生見  
 世驃貌  
 難易

舟  
 龍  
 頭



葉應龍ハ稷厝申小出スル明兵忽チ金鼓を鳴リて湧ク如ク殺出  
 与魏大猷陣烈然立テ鉄炮を放セシ明兵由矢先成テ雨ノ  
 下ニ射出一挑ニ戦小清兵女一疾痺テ死スル所を張看換降  
 鋒を揃テ挿入當ニ幸ハ切テ落ト清兵益々乱ミ立テ小清の  
 先鋒魏大猷葉應龍金作礪近合セテ支一戦時小監廷珍鉄炮の  
 音連綿々成出テ先陣已小敵ト戦成テ儒生の郷道す小志ハ  
 衆軍操小シシ別路より敵ノ横合ニ衝出シ左小林政李組あり右  
 小王萬化邊士偉あり何モ戈戟を舞テ蒼地暗小斬テ入ニ儒生  
 由卿兵を帥テ後小續カ力戦ト其勢ハ烈風ノ野草を吹ク如ク  
 力ハ張看換降勢ハ敵ノ死ヲ知テ馬放拍テ逃スル大守前  
 の如ク力ハ士率何ぞ全ク死テ死然ト乱ミ立テ膽を冷シ魄を散シ

散々小敗走リ清の諸將勝小乗テ追殺一首成取吏算成知ト  
 張看換降志々射テ追々敗軍を聚テ瀬只を回リテ

世驃計折明水軍

時小世二日絶世驃私馬戎私一書翰を以テ遊擊林秀ハ安平鎮より  
 瀬只攻蒐リ敵成出テ云遣一後官遊擊許華。一  
 昆身より瀬只推寄敵を成出テ云遣一林秀許華書翰  
 を得テ即日兵を進テ瀬只推寄伴と敵船近く寄テ士平を船  
 の舳先小出テ或ハ楊或ハ屍を露シ或指テ罵リ或ハ半成拍テ吠  
 ひやとさせス杜君英李勇ホグ手勢敵の謀計ハ夢や知テ腹  
 小シスス兵船成揃テ撃テ蒐ル林秀許華文時支一伴と防成  
 小シスス備を乱テ潜走ス杜君英李勇須波敵ハ乱テ追



蒐く一騎も余さば討取よと。敵の逃るが面白さふ我をよとれ追  
蒐行。朱一貴斯く歩く大少孩だ。杜君英李勇亦敵我水口おびき  
入よと命せ。我が謀我忘ま。却く敵の謀計小中まりと。急小早  
船我以て呼返さ。あしきま。李子勇亦早遠く敵我追追付こと  
能く。此時世際ハ多くの小船を殺け。其上小数千の鳥炮を連並べ  
て待けり。敵をサ。回小おびき出。時食と。と旁りり衝きり  
横手より鳥炮を一斉小發せれ。是が為小明兵夥しく撃ま。ま  
水中小落く死する者數ま。海水一時小變。紅のの色となり  
時をぬ小萬山の紅葉の散浮小異なり。杜君英李勇皆多敵の  
謀計小中。急小下知を傳へ。引退た。朱一貴ハ  
船午の戦ひを言遣ひ安ん心なり。多小張者。獲降大少敗。朱

小成く敗卒と俱小獲。層申より逃。回リ音息。我吐敵乃大軍。悉く陸  
小上り味方の後。廻リいと報。朱一貴。大少孩。長歎。如斯く  
ハ我が針已小画餅と。清將真小棧。變小通せり。敵小後。取き  
是てハ叶ハト。皆小同小船を捨陸小上り。走り。陸の手の藍廷  
珍。追小是。殘。浪波明賊のま。一騎も余さ。興を。勢  
小乘。掩殺。れ。走り。後。明兵數を盡して。針。意  
彼儒生一人。あ。清軍。悉く水底の水屑と。小渠。世  
小針策を献。鬼神。拵。朱一貴。謀略。大敗  
小至る偏小清朝の高運の。と。と。  
朱一貴針策。劫敵。當  
斯く藍廷珍。逃。殺。塗。至。遥十里。彼方の

朱一貴針策劫敵當



山々小明の旌旗數限もなく翻り出く雲の如く覺の如し。監廷珍是  
 戎刃々々敵小援兵の加りたるを長追して針路小中なるを。勢を班免  
 其所小陣然も諸も朱一貴を討残されざる兵城引く走りも小明の  
 運も今ハ斯よとありひ々々。將清軍の猛威小怕きも路の上めて大半  
 落失果ハ唯八百人なりぬ。然も其中痲然蒙りたる者もあり。又老人  
 の役も多うたる者もあれど。朱一貴天候仰々長歎して曰。諸將義氣を逞  
 ありし力カ勞一也とも。奈何せん天の時いま至として空々々小一  
 且此所を去り遠大の針路を廻とす。李勇が曰。主公何ぞも怯弱な  
 る。更成曰。それ勝敗ハ兵家の常なり。今小初一更もあらず。又小勢と  
 以く大敵を碎し倒も收挙ももふ違なり。今味方新も敗して兵寡一と  
 以ども幸も將も者いまも二人も死亡せど各死成二回ありて敵もあらず

と清軍我追退人更何を難くえた。一度敵我退けをも再び兵勢強  
 大小成軍。又運拙く敗績せむ。身成原上の土も歸りく名を音  
 史小苗人更回り各期一たる所なり。刻を放て練も杜君英も  
 李勇が言成壯なりとて俱も進んぐ戦ん更成望む。朱一貴頭と左  
 右小揮り曰。足下等が論ども所義小と且勇なりといへども。唯是血  
 氣短慮の行小く格論ハ言が。時勢小察せむとて無謀の戦  
 ひ小身命成捨んを無益なり。是迄の争戦小一成以く萬成碎れ。六  
 七日成不過とて臺灣成斬隨下程の勢ハ一朝の敗戦より手成及  
 ことごとく義小絶と程の謀成敵小覺らま。萬更心小任せとて  
 更之結小せむ。是吾が智の不足小あま。諸將の勇成小あま  
 唯時運の熟せざるなり。彼句賤が呉乃為小困らま。石淋を豈





世驃策  
せいのせうさく  
 敗明水  
まへんすい  
 軍  
ぐん



兄弟傳行録卷之二



の愧を忍ぶあらざる人馬とく會誓の勝利を得る呉成亡一得べ  
 だ抑もも崗山小義旗を揚一日狂風の為師の旗を吹折さるハ  
 天より凶兆示さるりと察せしむと倅と吉兆かりとて以て兵戎發せしハ  
 一度天下の人心を挫んるもの敢く長久の謀ありと今味方再三  
 の敗軍も多し兵を折ぐとすも初め義成唱く大吏を企一大将を  
 一人も戦死せしと是天の皇運が不斷して大明再度興り懾々  
 て先公萬代の輝とぶれば兆かり宜く一旦の耻成忍び時の到るを待た  
 敵勝も乘どしとくもいま我軍の虚实は知得と故小絶世標が智  
 慮深れ也。大軍が塗撃埒小屯とて狂忽に攻蒐るべし。此間ゆ于  
 狂く引退るしと議する所小作侯の士人遠く地固り敵軍今夜  
 夜討小寄人と其準備頻りに構へ御油断ししと報を衆人にこれを

歩く大の勢馬た今兵困り勢ひ窮りたる敵の大軍を取籠られぬを  
 一人も命残全とする者有まじと衆顔色如菜怕も或は朱一貫白衆人  
 深く患る更勿き前小國姓爺神仙十針窮る時小臨て披た見しと  
 錦囊の線成遺しとて今其教小隨て活路を得んとと嗽盟して  
 彼囊成披た見大の悦ひと曰果して神仙天地を見抜の織量ありと  
 て急小士卒が今其辺り遠近の數成率より中切小截せよとの繩  
 成集り其成二三尺宛小切小口大薬を塗く火を付是成其生行の  
 截小口成割く一面子殺しと柿をせむ。他所より是成臨んれを重々疊  
 くして恰も數萬の軍勢半毎小鉄炮の筒口成揃へ敵寄きとすも  
 一各小切く放し寄兵を度全せんと構へる。明兵此謀計をんと  
 感歎せむとす者なく諍たりとす。斯ともあると清軍今宵



敵陣(夜討)をうけ四方より火をうけて周障(あしき)をう所を二騎(にき)も残(のこ)さざり  
討(う)とんと藍廷珍(らんてんしん)且(かつ)の中より手賊(てそく)を定め夜(よ)ふへく押出(おしだ)し敵陣  
成(なり)通(とお)し臨(りん)む數萬(すばん)の火光(くわく)星斗(せいとう)のころ數十里(すうじり)ふ充滿(みちみ)されを大(おほ)り  
孩(こ)た是(こ)如何(いか)敵軍(ていぐん)へ駈(か)りた援兵(えんぺい)加(か)りしを兼(かね)て琉球(りゅうきゅう)交趾(かうぢ)を  
より加勢(かせい)きまきまに流(りゅう)言(げん)せしが偽言(いつはりごと)なりしを以(も)つて其勢(せい)乃(すなは)ち来(き)たりしや  
と軍中(ぐんちゆう)一區(いちく)を評議(へいぎ)して安(やす)れ心(こゝろ)なり藍廷珍(らんてんしん)も是(こゝろ)然(しか)るを實(まこと)にわづらひ大(おほ)  
軍(ぐん)のまきまも更(さら)尋常(じんじょう)の更(さら)なりし外國(がいこく)の援兵(えんぺい)来(き)たりしを以(も)つて今夜(こんや)必(かな)ら  
む敵(てい)より夜討(よせう)をうけざる其(その)准備(じゆんび)せよとて敵(てい)は擊(う)ち手(て)更(さら)ハ儲(たくわ)ひ死(し)に  
て軍中(ぐんちゆう)觸(ふ)れし一隊(いちたい)成(なり)堅(か)り陣外(じんがい)の四面(しつめん)も鳥炮(てうぱう)の兵(へい)成(なり)まきまに備(そな)へ敵(てい)寄(よ)り  
きまきまも只(ただ)鳥炮(てうぱう)も少(すく)く堅(か)り守(まも)り敢(あ)へて出(い)で戦(いくさ)ふるもかれと令(れい)  
り明(あ)の陣(じん)も朱一貴(しゆいつき)敵(てい)の寄(よ)来(き)まきまも成(なり)んまきまも右(みぎ)をたんと微笑(びせう)笑(わら)ひ

敵(てい)一(いつ)驚(おど)成(なり)喫(く)せしむそれ成(なり)お退散(たいさん)せんと八百騎(はつひやくき)成(なり)五手(ごて)も清(せい)の  
陣(じん)迫(せま)り押寄(おしよ)喊(こゑ)を咄(とつ)と上(あ)り清(せい)兵(へい)大(おほ)く孩(こ)た須波(すは)敵(てい)を寄(よ)り  
とてまきまの大軍(たいぐん)戰慄(せんりつ)し四面(しつめん)より鳥炮(てうぱう)を射(や)り連(れん)々(ぜんぜん)も朱(しゆ)  
一貴(いつき)迫(せま)り寄(よ)られむ徒(た)ら空(くう)成(なり)おの一人(ひとり)も傷(きず)もあらず津(つ)々(ぜんぜん)も繰(く)り  
引(ひ)小退(せうたい)死(し)士卒(ししゆ)心(こゝろ)任(まか)せお退散(たいさん)せしむ朱一貴(しゆいつき)李(り)李(り)勇(ゆう)杜(と)君(くん)英(えい)以下(以下)の諸將(しよしやう)  
と俱(とも)お洛行(らくぎやう)おおひもよとと神通道(しんどうだ)入(い)漂(ひら)然(ぜん)として出来(き)り我(われ)卿(けい)ホ  
成(なり)待(まち)更(さら)久(く)く十(じゆ)人の士(し)成(なり)引(ひ)く深山(しんせん)へ入(い)りて遂(つひ)に其(その)終(は)る所(ところ)と知(し)  
むと清軍(せいぐん)はう(お)成(なり)と八(は)夢(ゆめ)もあらずと朱一貴(しゆいつき)如何(いか)なる謀略(ばうりやく)成(なり)か  
と總軍(そうぐん)怖(おそ)畏(おそ)のかり成(なり)懷(な)れ終(は)る夜(よ)金鼓(きんこ)を打(う)鳴(な)して守(まも)りたる  
廷珍(てんしん)入(い)其(その)基(もと)府(ふ)安(やす)民(みん)  
斯(か)く其(その)夜(よ)のかり早(はや)と明(あ)きと明(あ)き清軍(せいぐん)女(にょ)心(こゝろ)を安(やす)ん敵(てい)

忠義傳後編卷之十  
廿三



の虚実成見定め、雄雄存じの戦せんと言成定む。藍廷珍先存  
 侯成出と敵勢の動静を窺ひ、程を弛回し、敢て敵一  
 かくいと報む。藍廷珍深く審り、明賊究む偽の計を、決し油  
 断む。其伏兵あり、人更成恐む。諸將小令して不意を防  
 ぐ備を、金鼓を鳴し威を示し、敵營近く到り、唯其近  
 辺の數成一面を截悉く、大繩を竹の切口に挟む。敵兵  
 一人もなかり、衆軍始々其謀計なるを更成覺り、惆悵す。所  
 ちと、藍廷珍齒を切く、大に怒り、我ありの外敵の詐謀を欺ま  
 して、夜討を止り、逆賊を討滅せり。彼所の山より明の旌旗を立する  
 奇兵の謀あり、敵一人も有まらば、往く見よと、存侯を出して虚実を  
 探し、ひく果して紙旌紙旗のをを、面を斯と報む。藍廷珍

頭成搔く後悔し、急小兵成、草成分つて捕んとす。此時彼儒生  
 大に練く曰、今朱一貴が黨分を散り、潜て隠るるとも、將軍の  
 兵士朱一貴以下の諸將成、怒り、然る小今急小追捕んとす。彼  
 等外國へ去り、却て大ひかる國の患成をい金。渠亦既に兵  
 勢成失ひ、深山函谷に潜む。翼を死鳥の如く、何更成を仕出得  
 べし。殊に彼が黨民成、劫り賊窟を掠取れども、百姓亦惡を憤り生  
 ず。其肉成食人更成欲とれむ。久しきとて捕進む。如何  
 搜し、需むとも民成安んじむ。内は朱一貴以下成捕へ、更難  
 る。願く先府中へ入る萬民を撫育し、藍廷珍実を、儒  
 生が練小後、廿三日臺湾府へ入る。百姓皆草食、壺將水して官  
 軍成迎へり。藍廷珍此日府中へ入る。大に酒宴を開れ、諸道の諸



朱一貴  
遺一針  
義徒隱  
山林





將戎會と。因く百姓皆悦び萬歳を唱る声天地を動とをくりこ  
 中ふ血氣の者どもハ朱一貴ホカ捕（息賞戎得んを搜し需れども  
 曾て其踪迹を探り得ど。監廷珍ハ書翰を厦門へ遣く捷軍  
 戎報いれん。提督施世標ハ水路より捷戎奏と。督院羅滿（をいり  
 捷軍戎と喜小堪ど。撫院（俱小書戎朝廷奉つく此と  
 奏と。諸絶世標ハ藍廷珍と議して生捕の者を引出しく市小斬又ハ  
 厦門へ送る。称く數千人を海底小沈め殺と。督院羅滿是を  
 大ハ驚れ罪ハ其暴虐の巨魁小あり。民ハ時の勢ハ已更を得ど  
 渠ホ小隨逐せしもの。何ぞ刑と小堪ん。況今皇帝寬仁戎と  
 萬民を子の如く慈とせ。然る小奈何ぞ其衆人を悉く誅殺とせやと  
 急小臺湾（使者戎弛く。生捕の者とく濫小殺戮とせと能との

罪戎弘明。已更戎得ざる者むり戎刑とせ。云遣し。此總  
 督覺羅滿ハ文武の全才智勇兼備。兵戎調へ餉を貯。君小忠を竭  
 一民を撫育し。世舉く其徳小かり死徒ハ多り

臺灣地震疫癘流行

人多死。同ハ天小勝。天定つく人小勝と。朱一貴ハ大義中具ハ勢小乘  
 しく天小勝。時運熟せと。亦天小制せ。國姓爺仙翁  
 小隨ひく山林小跡戎暗し。これを臺地（已小平定。其首戎朝廷奏  
 一々小。皇帝大ハ喜ひ。群臣戎集へ。功勞を議し。諸將  
 小思賞戎。賜中ふ。於水管の陳策ハ孤よく守御の術を。敵と  
 敗り。城を堅固小保。殊小御感淺く。臺鎮小陞  
 進せ。時小總督覺羅滿の室太夫人汪氏省の地中。年と



是亦依<sup>レ</sup>朝廷<sup>ニ</sup>奏<sup>シ</sup>哀<sup>ニ</sup>哀<sup>ニ</sup>奉<sup>ル</sup>忘<sup>ル</sup>中<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>事<sup>ヲ</sup>成<sup>シ</sup>謝<sup>ス</sup>。厦<sup>ノ</sup>民<sup>ニ</sup>是<sup>ヲ</sup>を  
更<sup>ニ</sup>市<sup>ヲ</sup>成<sup>シ</sup>罷<sup>シ</sup>巷<sup>ヲ</sup>小<sup>シ</sup>哭<sup>ス</sup>。轅<sup>門</sup>の外<sup>ニ</sup>來<sup>リ</sup>集<sup>リ</sup>痛<sup>ク</sup>歎<sup>ク</sup>。歸<sup>ス</sup>こと  
三日<sup>ニ</sup>夜<sup>ヲ</sup>及<sup>ビ</sup>ひぬ因<sup>テ</sup>撫<sup>都</sup>院<sup>民</sup>の歎<sup>カ</sup>於<sup>テ</sup>朝廷<sup>ニ</sup>奏<sup>シ</sup>。一<sup>ニ</sup>なりは是<sup>ヲ</sup>を  
朝廷<sup>ニ</sup>より覓<sup>テ</sup>羅<sup>滿</sup>紹<sup>ヲ</sup>を下<sup>シ</sup>。忌<sup>中</sup>ありとも政<sup>勢</sup>を治<sup>ム</sup>。命<sup>ヲ</sup>  
下<sup>ル</sup>。是<sup>亦</sup>因<sup>テ</sup>臺<sup>灣</sup>厦<sup>門</sup>初<sup>ニ</sup>平<sup>ク</sup>。然<sup>レ</sup>も尚<sup>ホ</sup>人心<sup>ニ</sup>危<sup>ク</sup>疑<sup>ク</sup>  
く安<sup>ク</sup>。時<sup>ニ</sup>小<sup>シ</sup>陸<sup>ヲ</sup>提<sup>督</sup>穆<sup>平</sup>と已<sup>ル</sup>死<sup>ス</sup>。望<sup>ク</sup>表<sup>ト</sup>遺<sup>ス</sup>  
督<sup>憲</sup>臺<sup>灣</sup>成<sup>績</sup>の功<sup>ヲ</sup>を美<sup>シ</sup>。抑<sup>テ</sup>臺<sup>地</sup>の兵<sup>亂</sup>より以來<sup>ニ</sup>官<sup>兵</sup>  
民<sup>賊</sup>悖<sup>ク</sup>死亡<sup>シ</sup>。瘡<sup>痍</sup>目<sup>ニ</sup>滿<sup>ク</sup>文武<sup>ノ</sup>緒<sup>ヲ</sup>將<sup>ト</sup>俱<sup>ニ</sup>缺<sup>ク</sup>。督<sup>憲</sup>志<sup>ヲ</sup>  
く泉<sup>道</sup>の陶<sup>汀</sup>列<sup>府</sup>の高<sup>鐸</sup>建<sup>寧</sup>府<sup>ノ</sup>通<sup>判</sup>孫<sup>魯</sup>魯<sup>海</sup>澄<sup>縣</sup>の劉<sup>光</sup>  
光<sup>泗</sup>漳<sup>浦</sup>縣<sup>ノ</sup>汪<sup>紳</sup>文<sup>等</sup>ヲ委<sup>シ</sup>。臺<sup>灣</sup>道<sup>ノ</sup>府<sup>々</sup>縣<sup>々</sup>守<sup>シ</sup>。此<sup>ノ</sup>  
朝廷<sup>ニ</sup>督<sup>臣</sup>提<sup>臣</sup>集<sup>メ</sup>文武<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>缺<sup>ク</sup>。其人<sup>ヲ</sup>を撰<sup>ビ</sup>任<sup>セ</sup>。茲<sup>ニ</sup>

提<sup>督</sup>絶<sup>世</sup>孫<sup>イ</sup>。師<sup>ヲ</sup>戎<sup>班</sup>臺<sup>灣</sup>小<sup>居</sup>多<sup>ク</sup>臺<sup>地</sup>大<sup>ニ</sup>疫<sup>癘</sup>行<sup>ク</sup>  
軍<sup>中</sup>悉<sup>ク</sup>疾<sup>ク</sup>大<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>。とれま<sup>ル</sup>八月<sup>十三</sup>日<sup>ノ</sup>夜<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>地<sup>ヲ</sup>  
震<sup>シ</sup>。疾<sup>風</sup>怒<sup>雨</sup>破<sup>ク</sup>大<sup>石</sup>飛<sup>ル</sup>。巨<sup>木</sup>根<sup>ヲ</sup>拔<sup>ク</sup>海中<sup>ニ</sup>より怪<sup>死</sup>  
波<sup>湧</sup>揚<sup>ク</sup>海<sup>邊</sup>民<sup>家</sup>數<sup>ヲ</sup>を毀<sup>ク</sup>。漂<sup>ハ</sup>溺<sup>ス</sup>ある官<sup>軍</sup>の船<sup>々</sup>  
四百<sup>余</sup>艘<sup>ノ</sup>人<sup>馬</sup>と俱<sup>ニ</sup>小<sup>移</sup>の如<sup>ク</sup>。陸<sup>地</sup>小<sup>水</sup>高<sup>ク</sup>。吏<sup>一</sup>丈<sup>余</sup>。官<sup>舎</sup>  
民<sup>家</sup>風<sup>雨</sup>の爲<sup>ニ</sup>小<sup>半</sup>壞<sup>ラ</sup>。上下<sup>皆</sup>雨<sup>ヲ</sup>冒<sup>シ</sup>。水<sup>中</sup>小<sup>往</sup>來<sup>シ</sup>。患<sup>ハ</sup>  
怨<sup>ハ</sup>甚<sup>ク</sup>。提<sup>督</sup>絶<sup>世</sup>孫<sup>モ</sup>怪<sup>死</sup>疾<sup>ヲ</sup>を得<sup>テ</sup>。晝<sup>夜</sup>煩<sup>悶</sup>。遂<sup>ニ</sup>九  
月<sup>十五</sup>日<sup>ニ</sup>小<sup>狂</sup>死<sup>ス</sup>。其<sup>余</sup>參<sup>將</sup>王<sup>萬</sup>化<sup>林</sup>政<sup>遊</sup>。半<sup>許</sup>華<sup>モ</sup>皆<sup>疫</sup>癘<sup>ノ</sup>  
成<sup>病</sup>。前後<sup>ニ</sup>小<sup>死</sup>。淡<sup>水</sup>官<sup>ノ</sup>陳<sup>策</sup>亦<sup>日</sup>天<sup>行</sup>病<sup>小</sup>。癘<sup>十二</sup>月<sup>二</sup>日<sup>ニ</sup>  
小<sup>死</sup>。是<sup>等</sup>成<sup>始</sup>。今<sup>般</sup>の軍<sup>吏</sup>小<sup>預</sup>。官<sup>軍</sup>悉<sup>ク</sup>疫<sup>死</sup>  
地震<sup>日</sup>夜<sup>止</sup>。是<sup>直</sup>吏<sup>小</sup>あ<sup>ル</sup>。絶<sup>世</sup>孫<sup>ガ</sup>多<sup>ク</sup>民<sup>ヲ</sup>を刑<sup>殺</sup>

忠義傳卷之十一

十一



海小沈うみこしづりたる悪靈あくれいのたもとたもと業わざかゝらとく陸小祭りくせり海小祭うみせり其靈れい  
 成慰なりなぐさをれを漸々ぜんぜん小地せうち変鎮へんちんより天行病てんぎやうびやう止とどまり茲小於こゝと萬民ばんみん初はつめり心  
 成安人なりやすびとの業わざ成樂なりがたと恭平きやうへい成唱なりうた覺羅滿かくらまん臺灣たいわんの地ち變靖へんせいをを挽ひ  
 以廣東いくわんの堤督姚ていとくやうを遣つたへて厦軍かみぐんの督とくとたり。澳鎮あうちんの藍廷珍らんていしんを臺  
 灣わんの鎮ちんとたりと然しかせしより後ハ鯨鯢きんぐい迹あと成なりとる。以海道いかいどう瀨せを安ん  
 太平無敵たいへいむてきの昔むかし小飯こひめりたるぞ芽出度めいでりたる

國姓爺くわんせい忠義傳ちうぎでん後編ごへん卷之十大尾くわんじゅうだいび

書 林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同南傳馬町壹丁目	山城屋政吉
同下谷御成道	英文藏
同大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
同 司	和泉屋吉兵衛
大塚心齋橋筋本町角	河内屋藤兵衛
大塚心齋橋筋博勞町角	河内屋茂兵衛板



